

SoftBank

2025年3月期 第3四半期 決算説明会

2025年2月10日

ソフトバンク株式会社

©2025 SoftBank Corp. All Rights Reserved

証券コード：9434

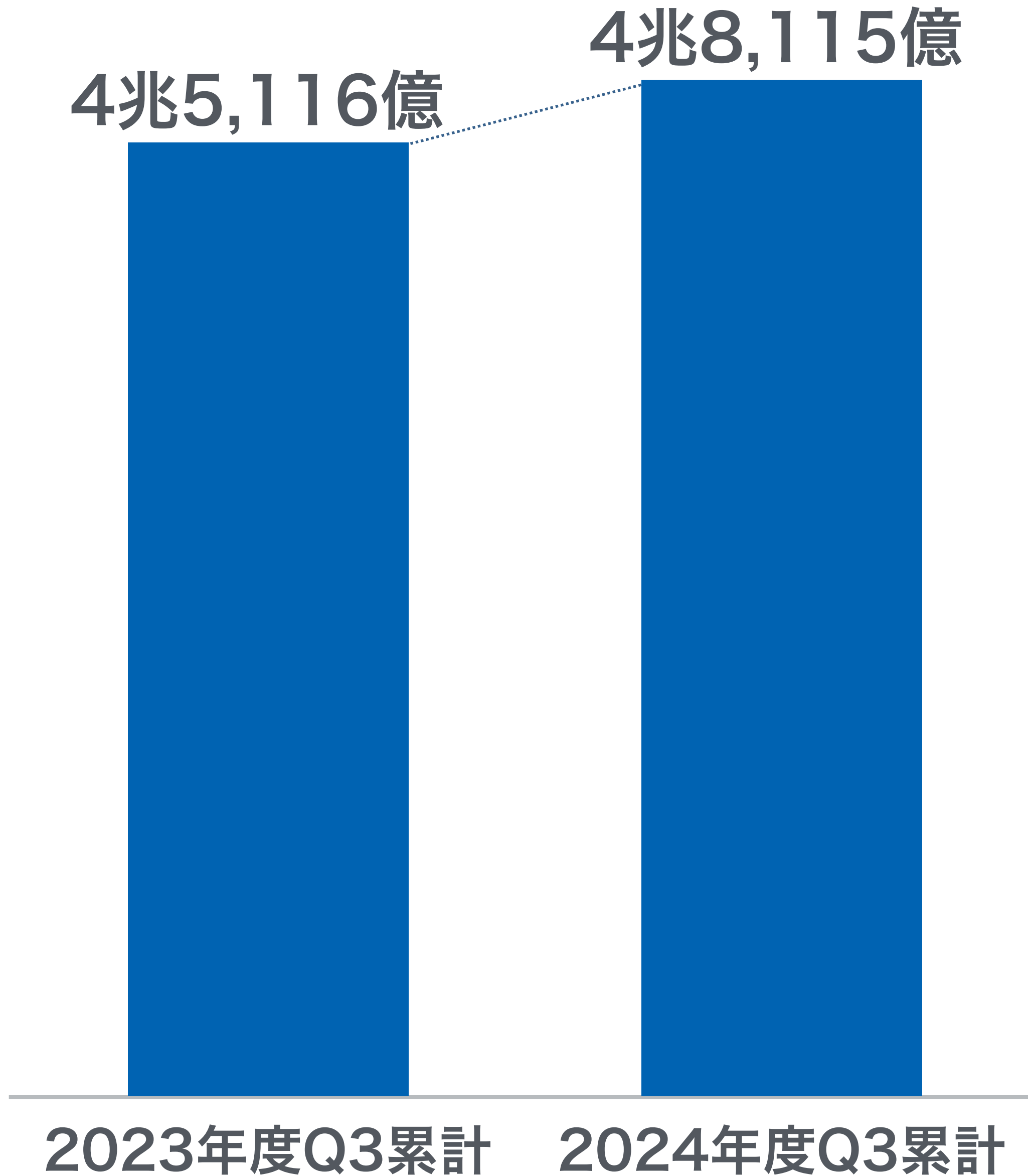
免責事項

本資料に含まれる計画、見通し、戦略その他の将来に関する記述は、本資料作成日時点において当社が入手している情報および合理的であると判断している一定の前提に基づいており、さまざまなりスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績などは、経営環境の変動などにより、当該記述と大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている当社および当社グループ以外の企業などにかかわる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

2025年3月期 第3 四半期 連結業績

売上高

[円]

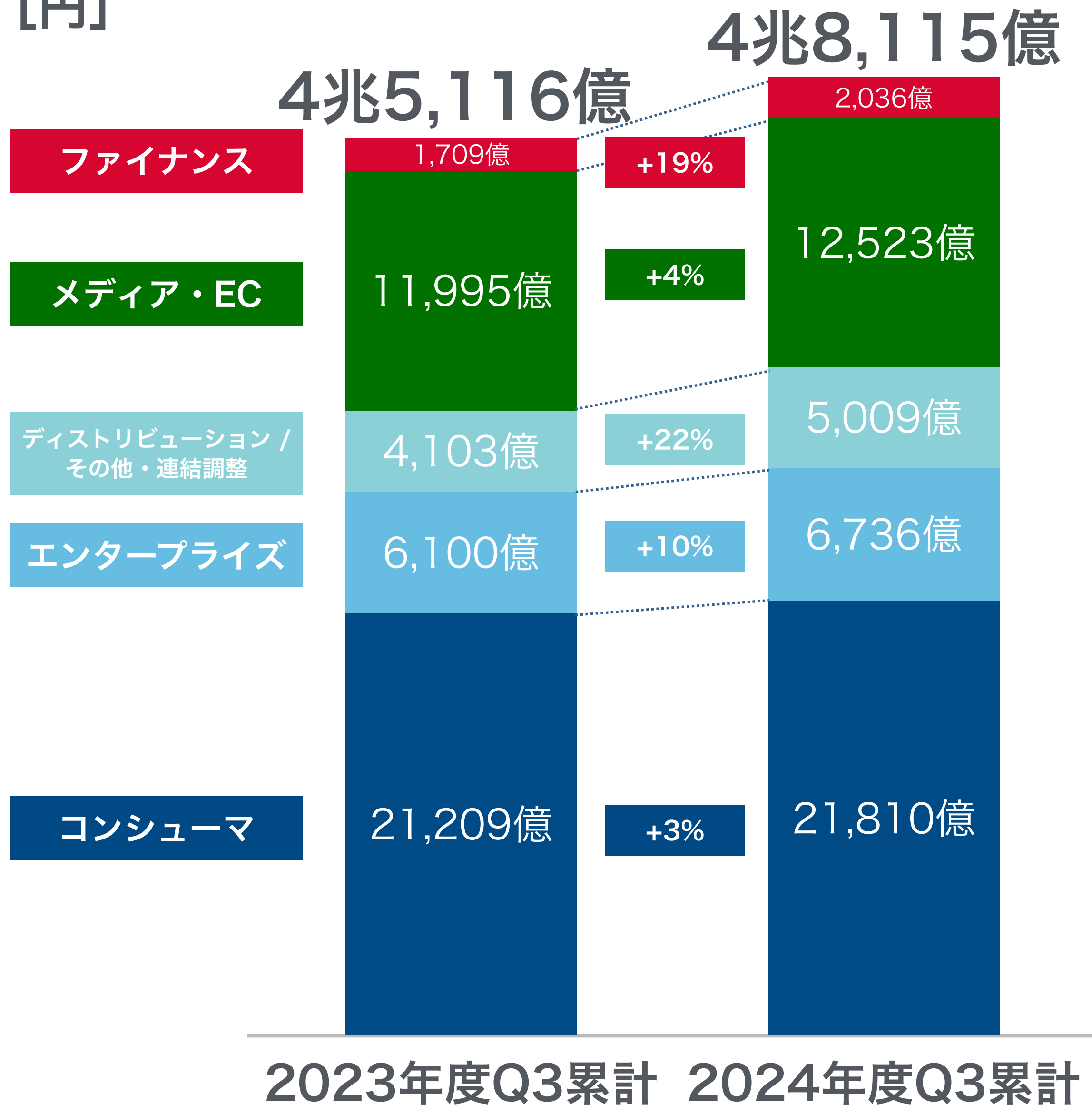


7%増収

(注) 本資料では、増減について特に記載のない場合は前年同期比を指します。また端数処理について、特に記載のない場合は表示単位の小数点第一位を四捨五入しています。

売上高 セグメント別

[円]

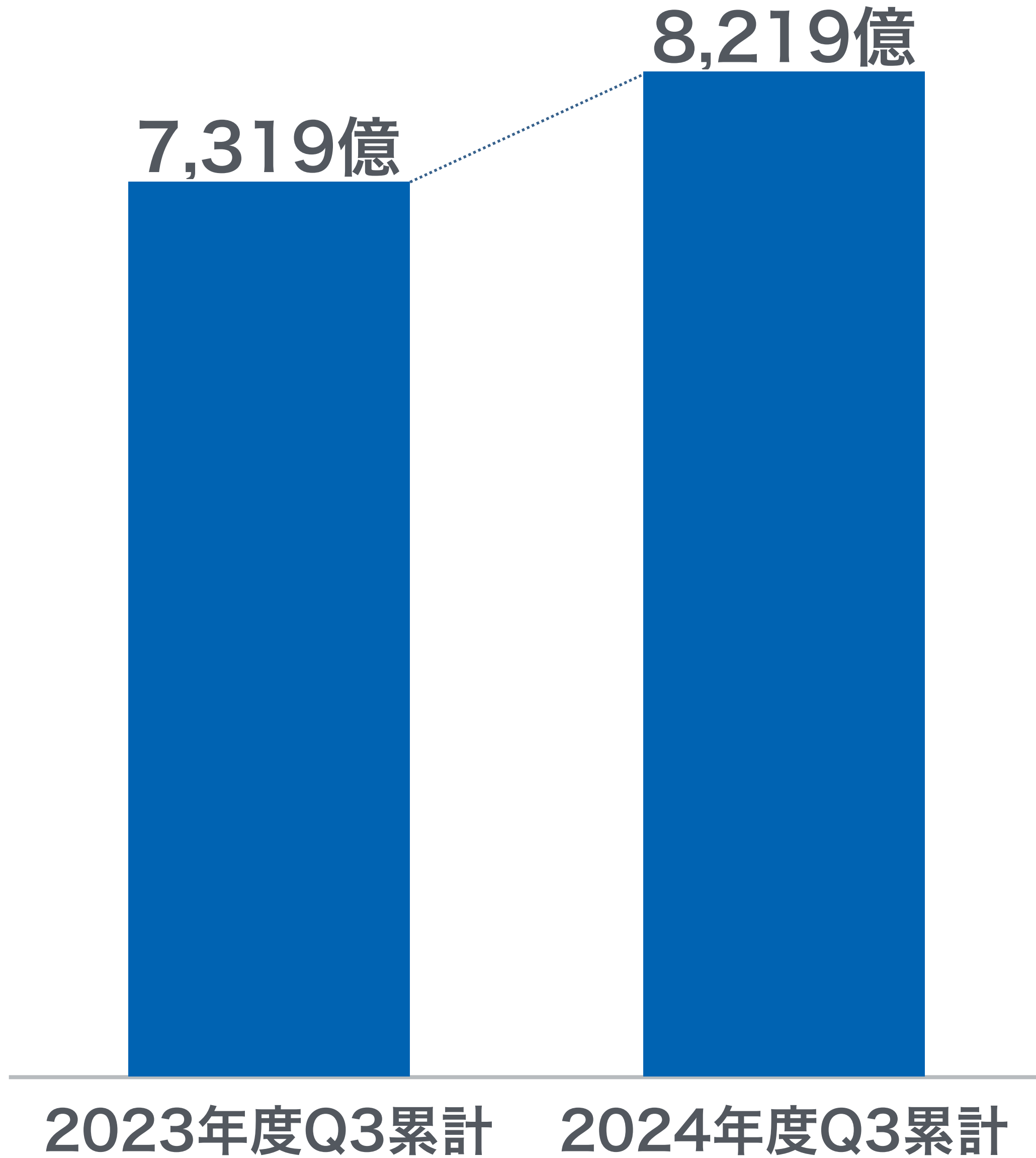


全セグメント 増収

(注) 2024年度Q1より、「コンシューマ事業」に区分されていた一部の子会社を「その他」に移管、また「その他」に区分されていたSBテクノロジー株式会社およびサイバートラスト株式会社等を「エンタープライズ事業」に移管しました。これに伴い、2023年度Q3累計の「コンシューマ事業」「エンタープライズ事業」および「その他」の数値を遡及修正しています。

営業利益

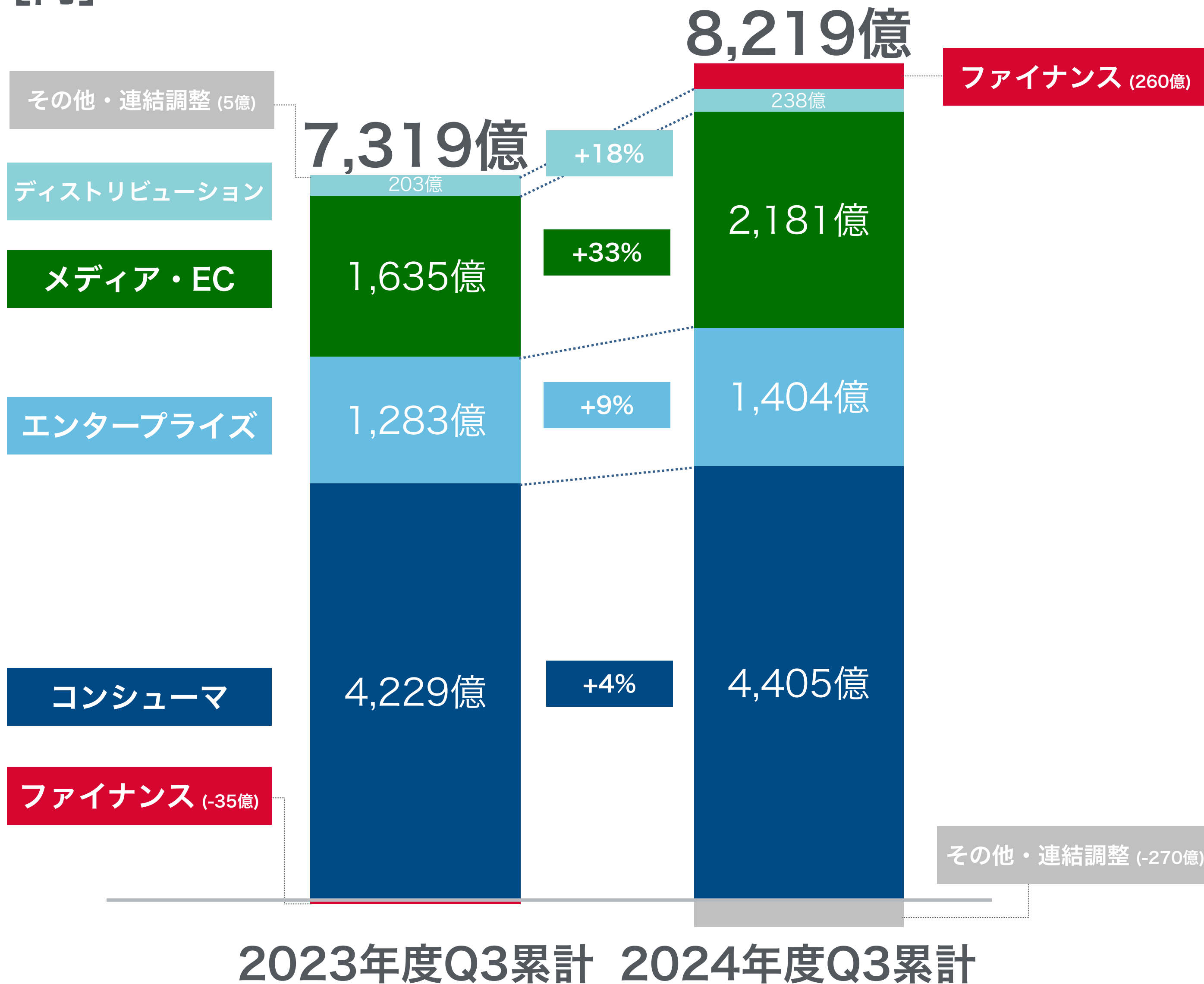
[円]



12%増益

営業利益 セグメント別

[円]

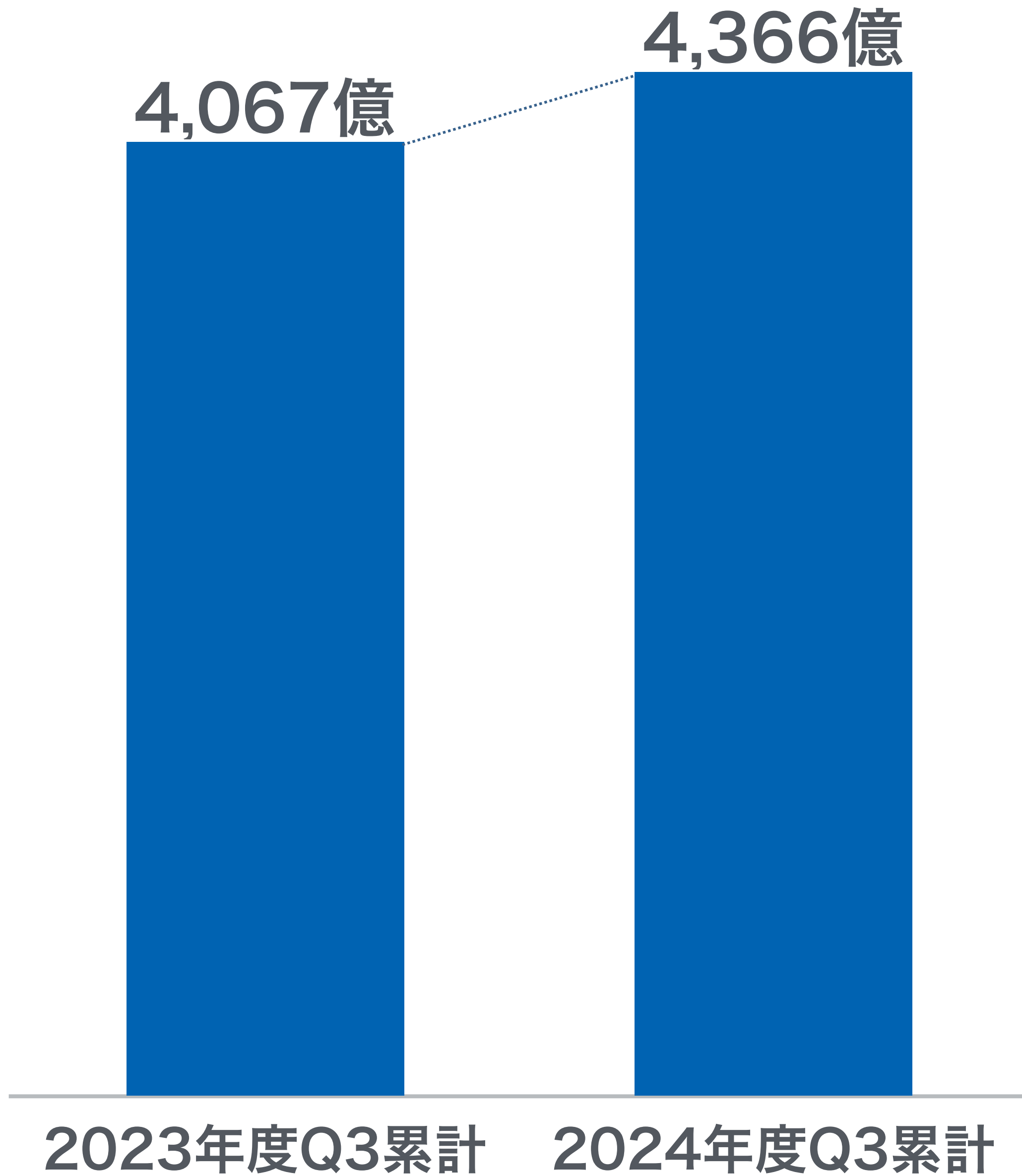


全セグメント 増益

(注) 2024年度Q1より、「コンシューマ事業」に区分されていた一部の子会社を「その他」に移管、また「その他」に区分されていたSBテクノロジー株式会社およびサイバートラスト株式会社等を「エンタープライズ事業」に移管しました。これに伴い、2023年度Q3累計の「コンシューマ事業」「エンタープライズ事業」および「その他」の数値を遡及修正しています。

純利益

[円]



7%増益

2024年度 第3四半期 連結業績

[円]

	2023年度 Q3累計	2024年度 Q3累計	増減	増減率
売上高	4兆5,116億	4兆8,115億	+2,999億	+7%
営業利益	7,319億	8,219億	+899億	+12%
純利益	4,067億	4,366億	+299億	+7%

2024年度 通期業績予想 進捗率

[円]

	2024年度 Q3累計 実績	2024年度 通期業績予想 <small>(2024年11月 上方修正後)</small>	進捗率
売上高	4兆8,115億	6兆3,500億	76%
営業利益	8,219億	9,500億	87%
純利益	4,366億	5,100億	86%

2024年度 セグメント別営業利益予想 進捗率

[円]

	2024年度 Q3累計 実績	2024年度 通期業績予想 (2024年11月 上方修正後)	進捗率
コンシューマ	4,405億	5,300億	83%
エンタープライズ	1,404億	1,700億	83%
ディストリビューション	238億	280億	85%
メディア・EC	2,181億	2,500億	87%
ファイナンス	260億	200億	130%
その他 (研究開発等)	-270億	-480億	56%
全社計	8,219億	9,500億	87%

(注) 2024年度Q1より、「コンシューマ事業」に区分されていた一部の子会社を「その他」に移管、また「その他」に区分されていたSBテクノロジー株式会社およびサイバートラスト株式会社等を「エンタープライズ事業」に移管しました。これに伴い、2023年度Q3累計の「コンシューマ事業」「エンタープライズ事業」および「その他」の数値を遡及修正しています。

コンシューマ 事業



コンシューマ事業 売上高

[円]

2兆1,209億 2兆1,810億

物販等売上

4,761億

5,145億

でんき

1,916億

1,842億

ブロードバンド

3,018億

3,054億

モバイル

11,514億

+256億
(+2%)

11,770億

2023年度Q3累計

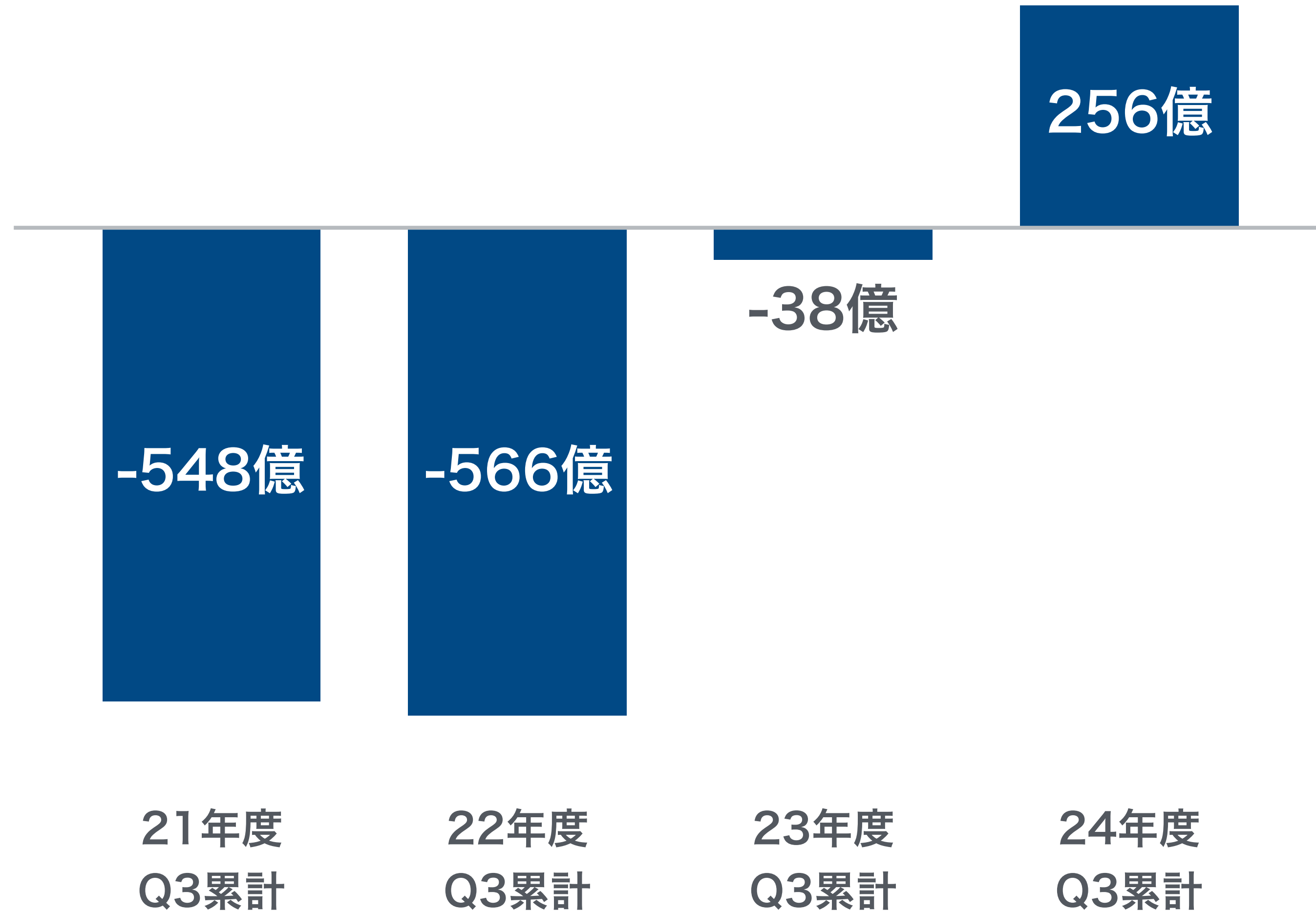
2024年度Q3累計

3%増収

(注) 2024年度Q1より、「コンシューマ事業」に区分されていた一部の子会社を「その他」に移管したことに伴い、同社が含まれていた「ブロードバンド」について、2023年度Q3累計の数値を遡及修正しています。

モバイル売上高 前年同期比

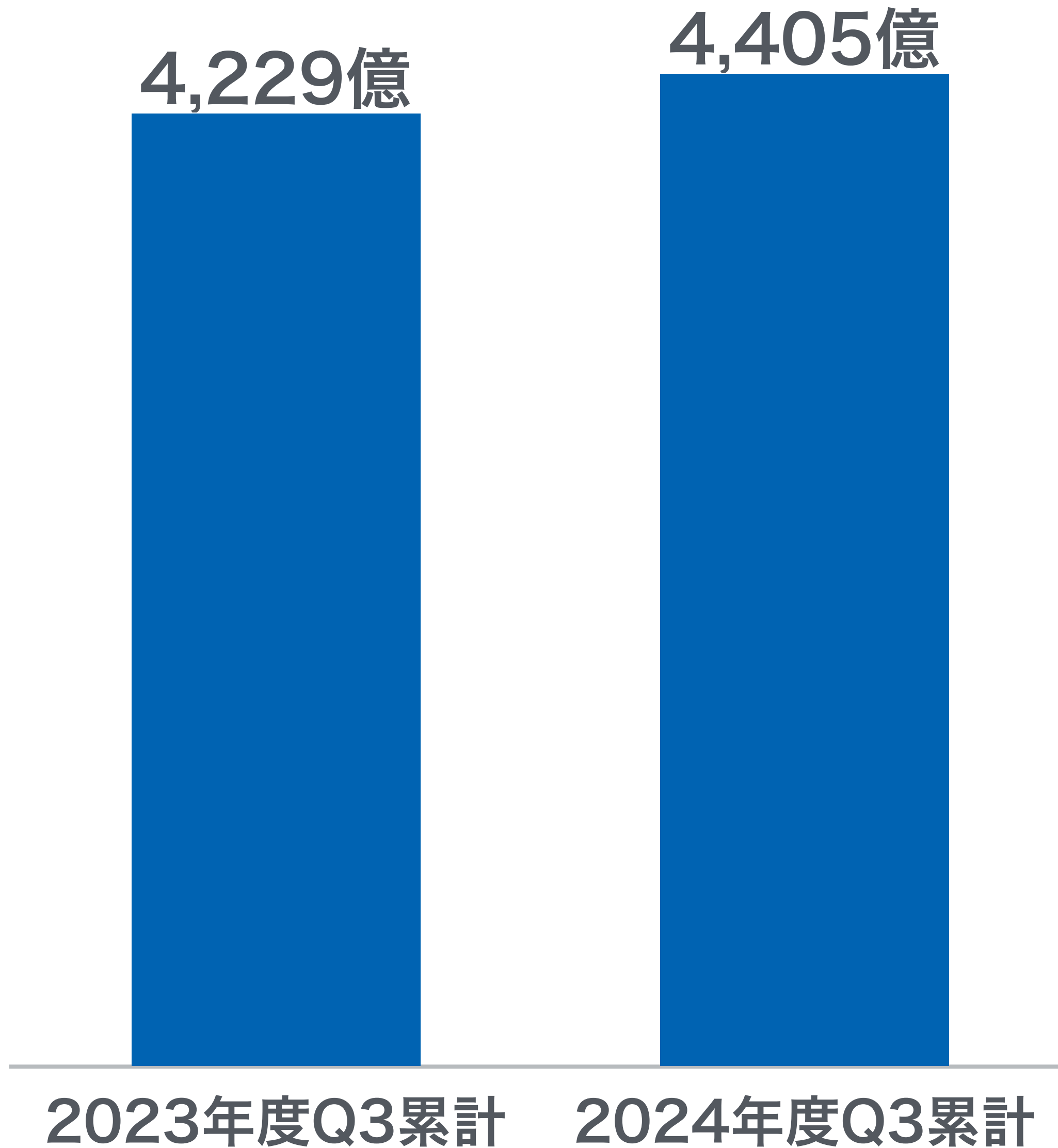
[円]



増収反転

コンシューマ事業 営業利益

[円]



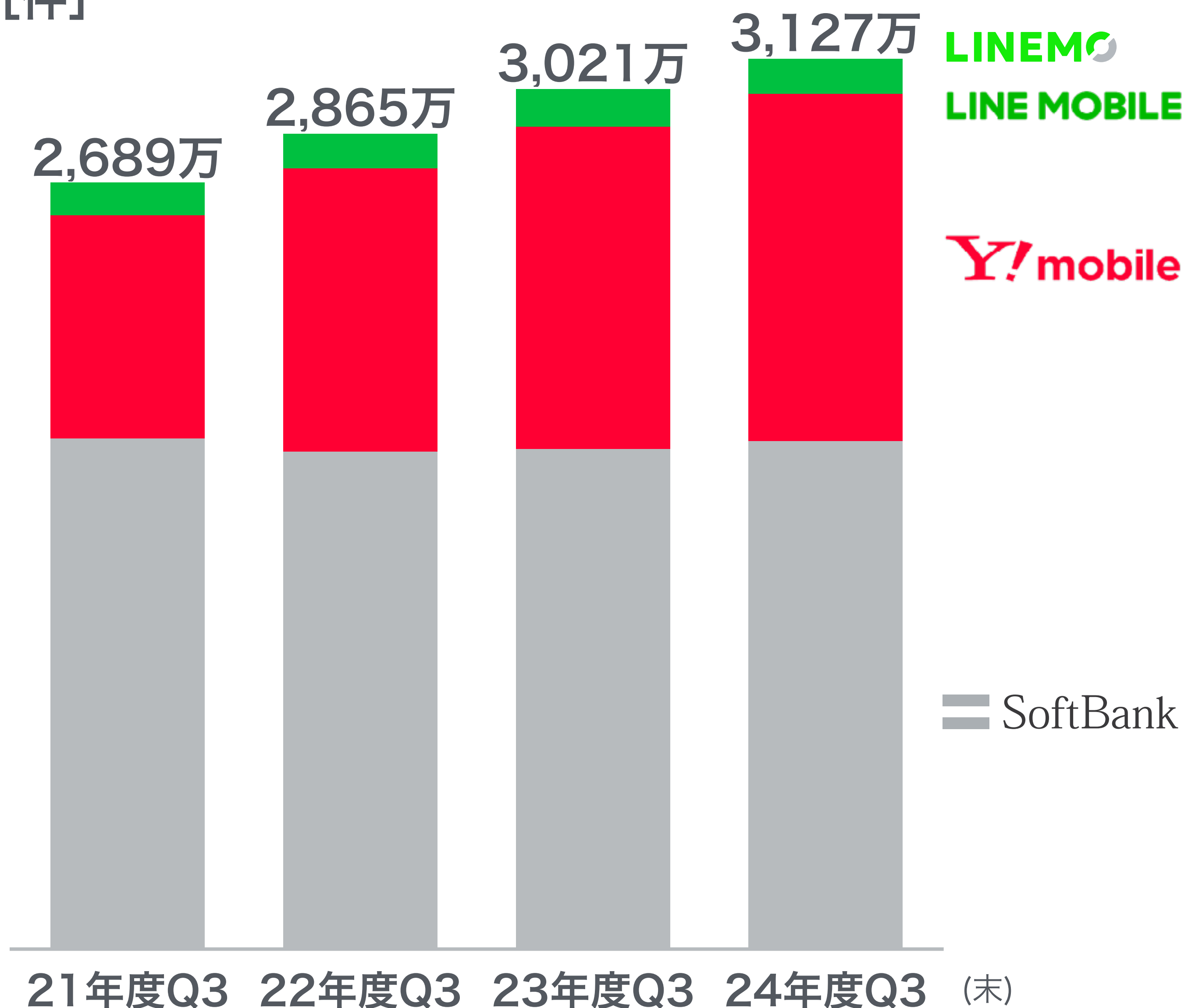
4%増益

(注) 2024年度Q1より、「コンシューマ事業」に区分されていた一部の子会社を「その他」に移管しました。これに伴い、2023年度Q3累計の数値を遡及修正しています。 | 4

スマートフォン 累計契約数

SoftBank

[件]

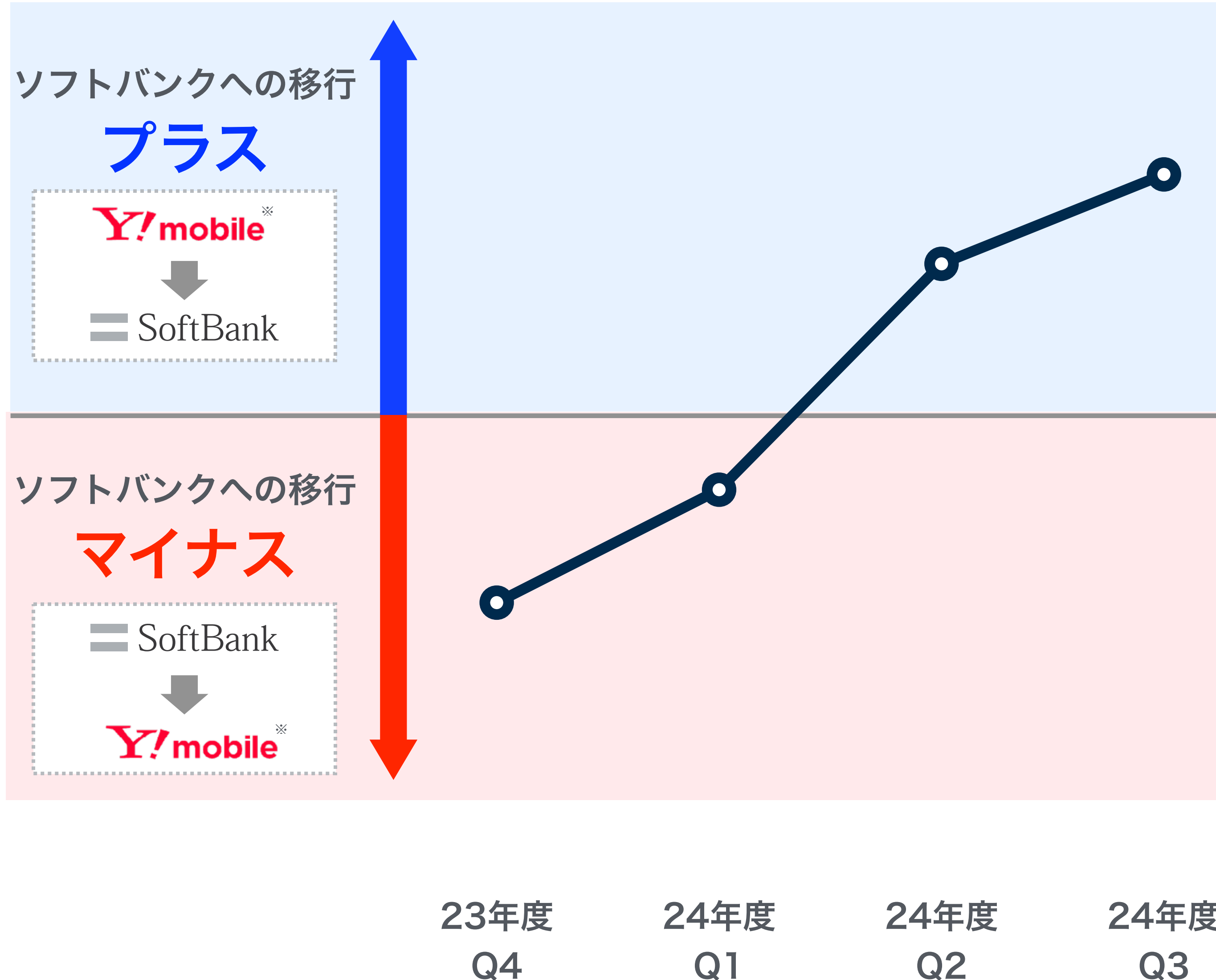


スマートフォン契約数

4%増

「ソフトバンク」への移行収支

[件]



プラス基調が 定着

(2024年度通期でもプラスを見込む)

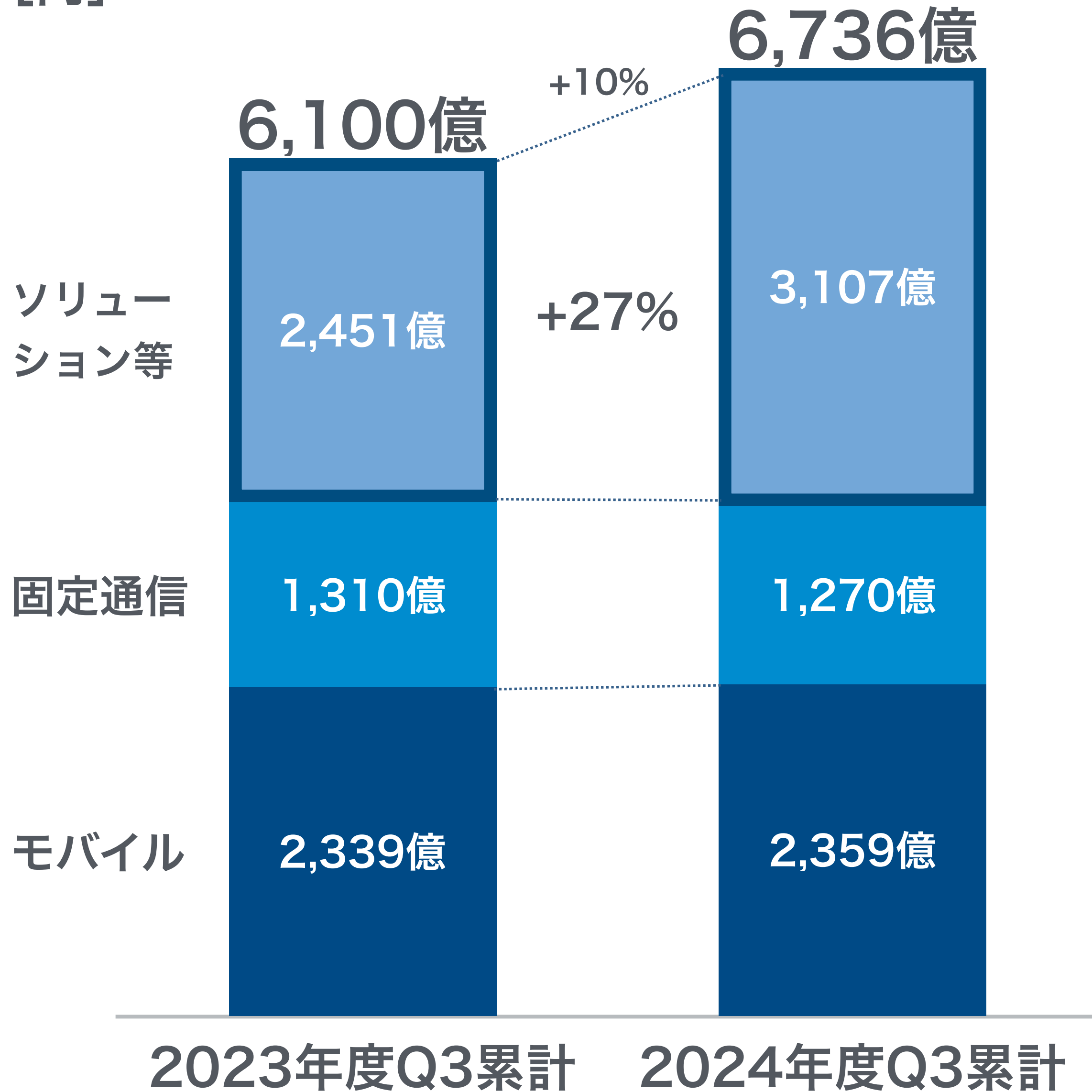
※ LINEモバイル・LINEMOを含む
(注) ワイモバイル/LINEモバイル・LINEMOからソフトバンクへ移行したユーザー数からソフトバンクからワイモバイル/LINEモバイル・LINEMOへ移行したユーザー数を引いて算出
法人契約を除く

エンタープライズ 事業



エンタープライズ事業 売上高

[円]



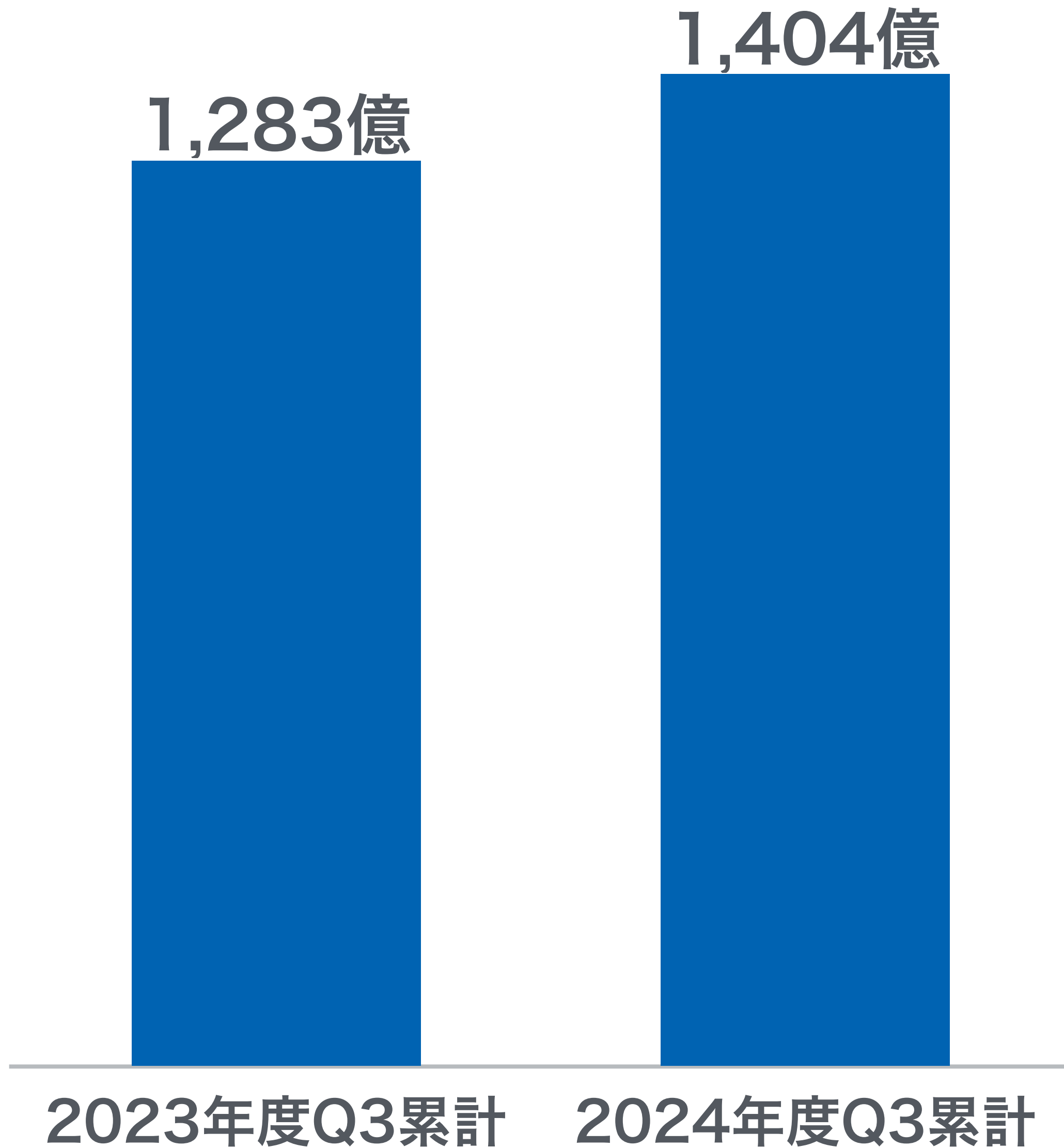
10%増収
ソリューションが順調

(注) 2024年度Q1より「エンタープライズ事業」に移管したSBテクノロジー株式会社およびサイバートラスト株式会社等の売上高は「ソリューション等」に含まれています。

また、2024年度Q1より事業の管理区分を見直し、「モバイル」および「固定」における一部商材を「ソリューション等」へ移管しました。これらに伴い、2023年度Q3累計の「エンタープライズ事業」の売上高の内訳すべてを遡及修正しています。

エンタープライズ事業 営業利益

[円]



9%増益

(注) 2024年度Q1より、「その他」に区分されていたSBテクノロジー株式会社およびサイバートラスト株式会社等を「エンタープライズ事業」に移管しました。これに伴い、2023年度Q3累計の数値を遡及修正しています。

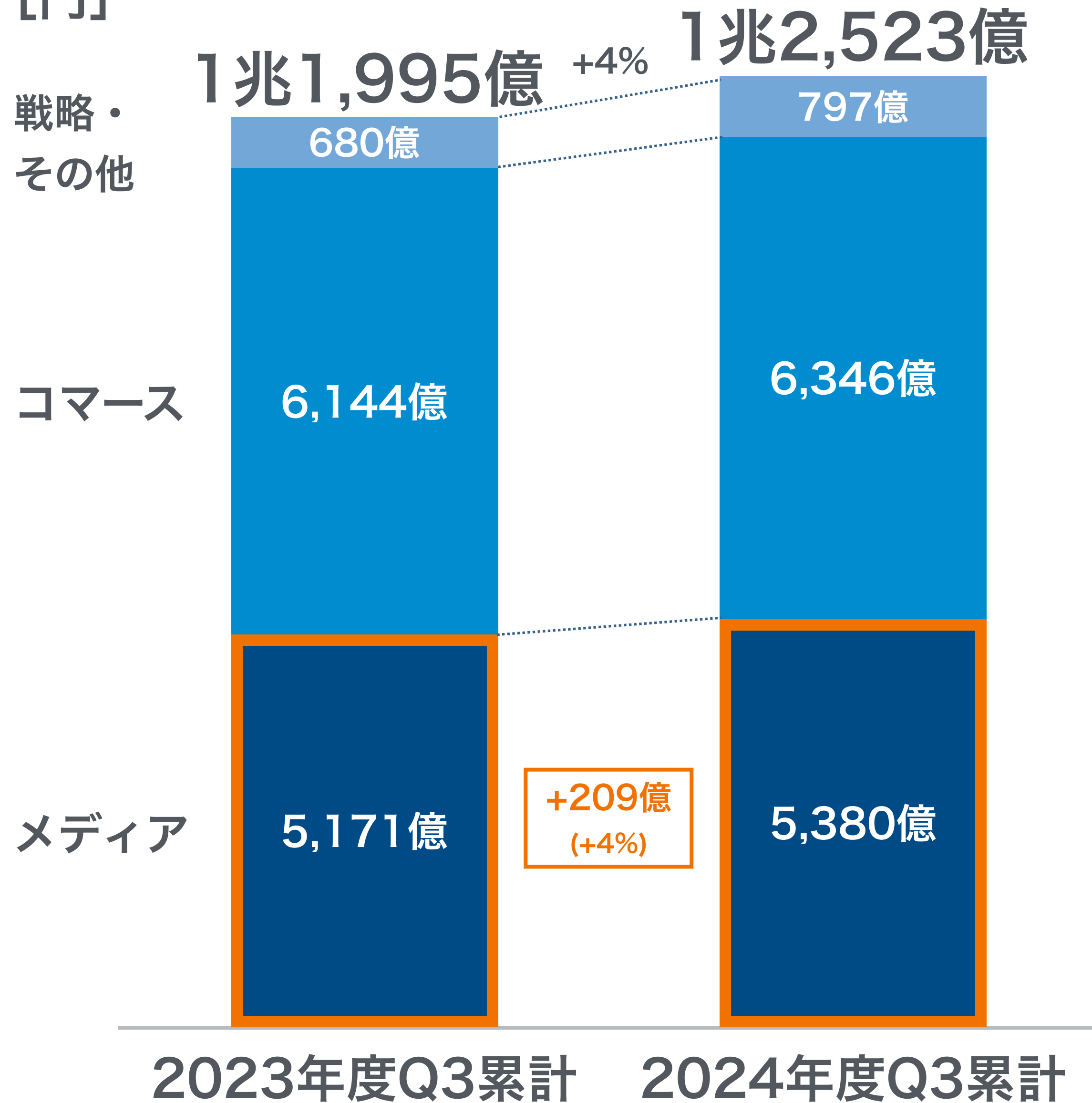
メディア・EC 事業

LINEヤフー



メディア・EC事業 売上高

[円]

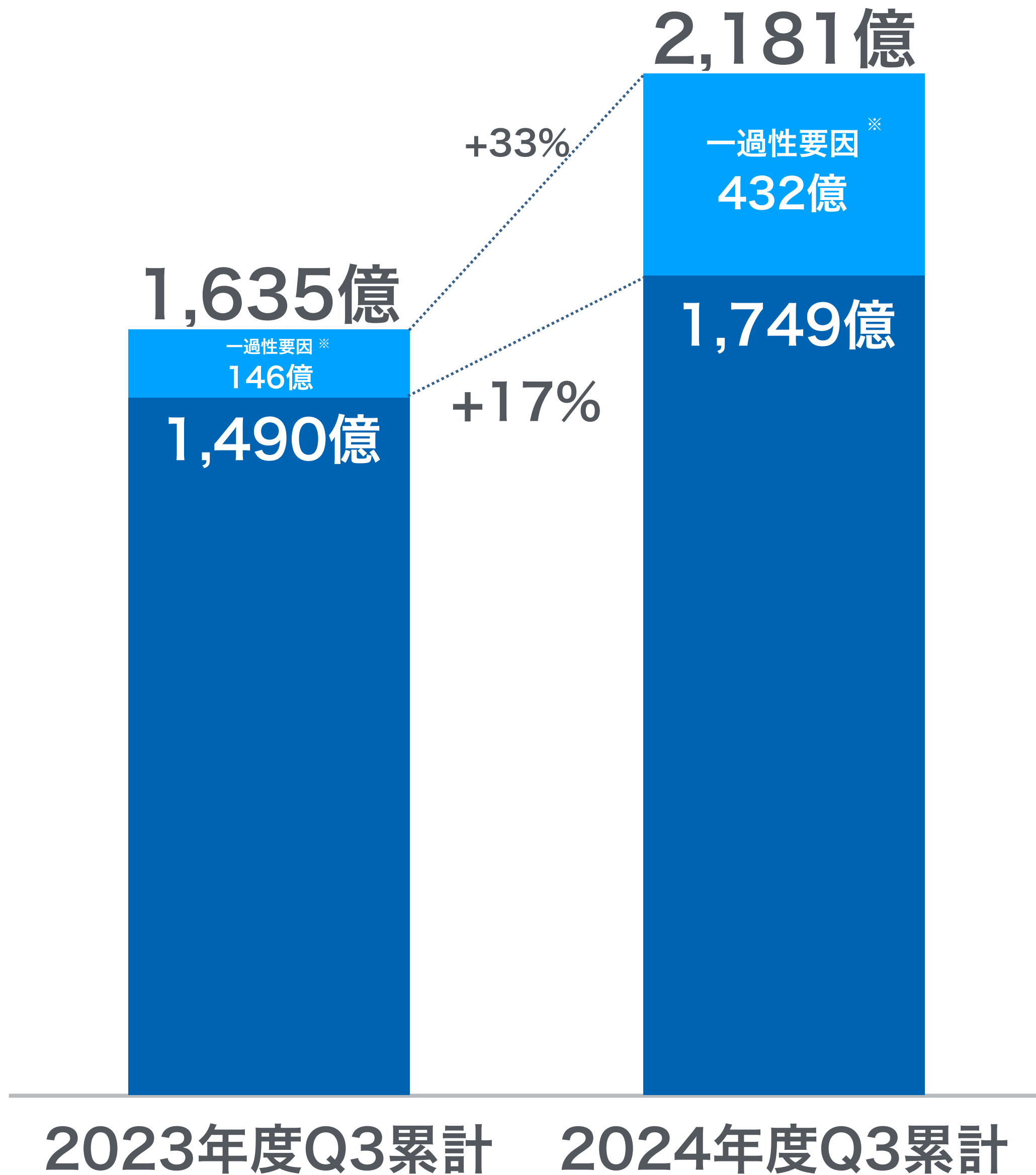


4%増収

(注) 2024年度Q3において、LINEヤフー株式会社グループでは事業の管理区分を見直し、「メディア」に区分されていた一部のサービスを「コマース」に移管しました。これに伴い、2023年度Q3累計のメディア・EC事業の売上高のうち、「メディア」および「コマース」の内訳を遡及修正しています。

メディア・EC事業 営業利益

[円]



33%増益
 (一過性要因^{*}を除く：17%増益)

※ LINE株式会社(現LINEヤフー株式会社)が営むAIカンパニー事業をLINE WORKS株式会社(旧ワークスマイルジャパン株式会社)に承継したことに係る事業譲渡益(2023年度Q1)、台湾にて「LINE TAXI」を手掛けるJDW Co.,Ltd.に第三者からの出資が実施され、子会社から除外したことにより生じた子会社の支配喪失に伴う利益(2023年度Q2)、IPX Corporation(旧LINE Friends Corporation)、LINE NEXT Corporationおよびバリューコマース株式会社の支配喪失益(2024年度Q1)

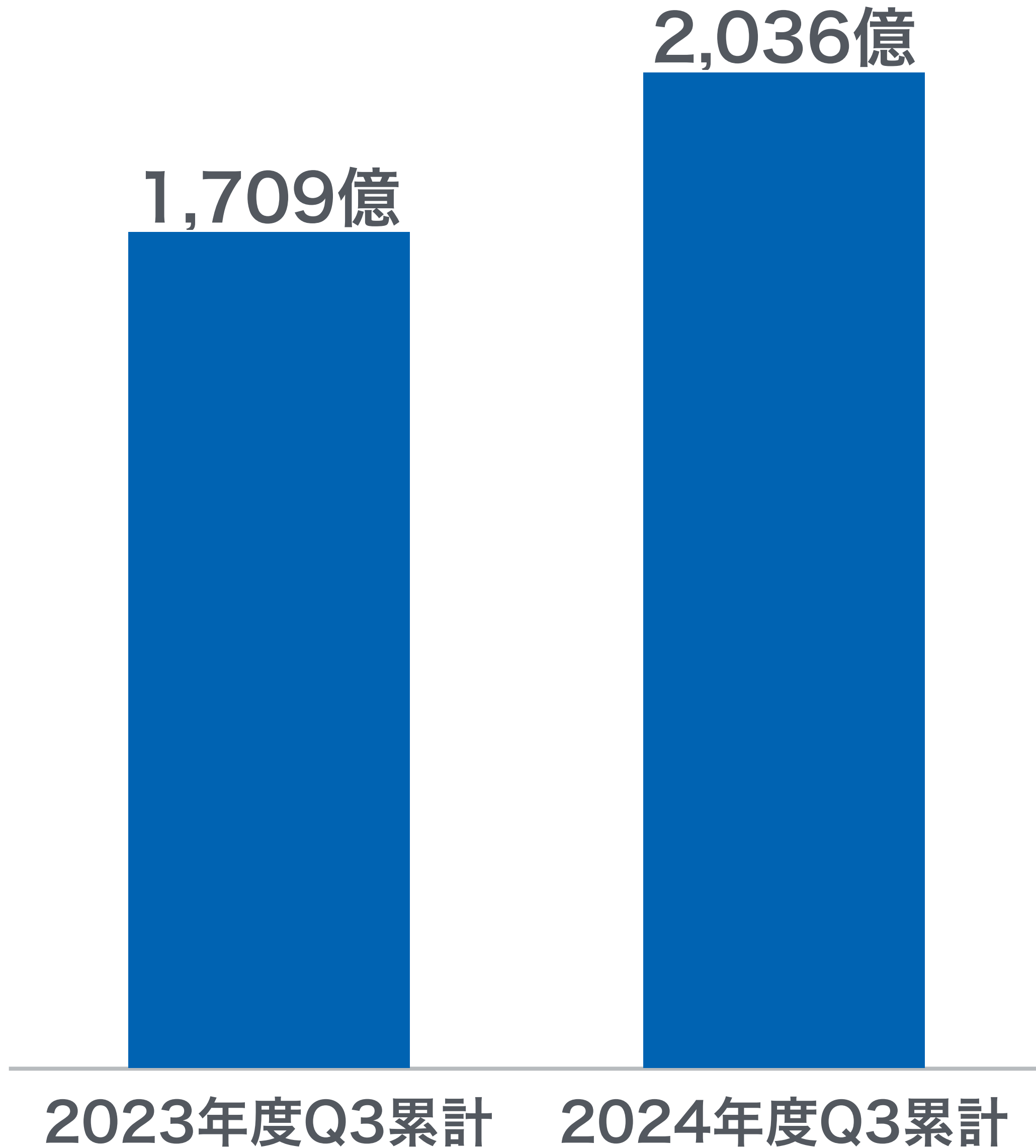
ファイナンス事業

SB Payment Service



ファイナンス事業 売上高

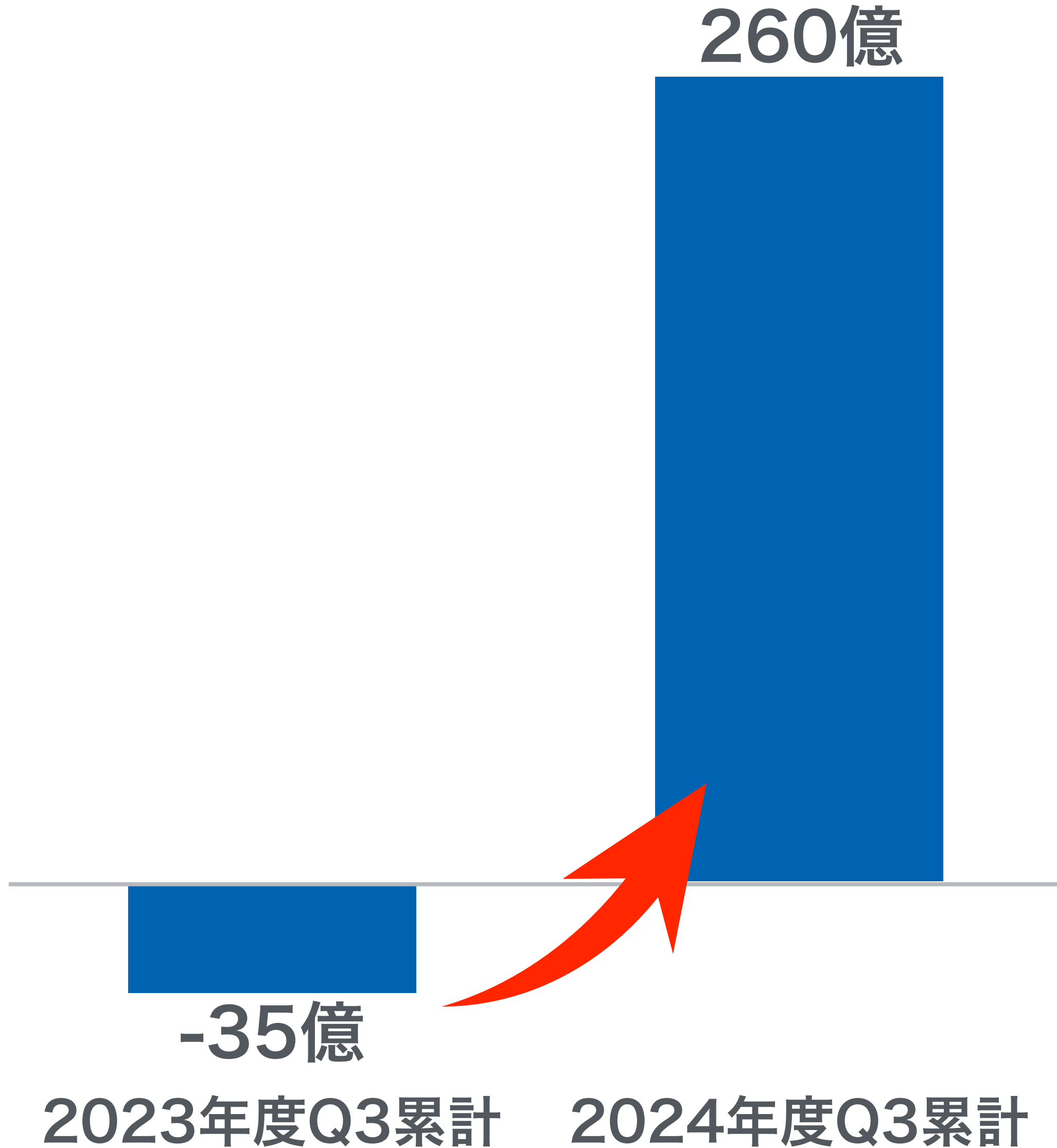
[円]



19%増収

ファイナンス事業 営業利益

[円]

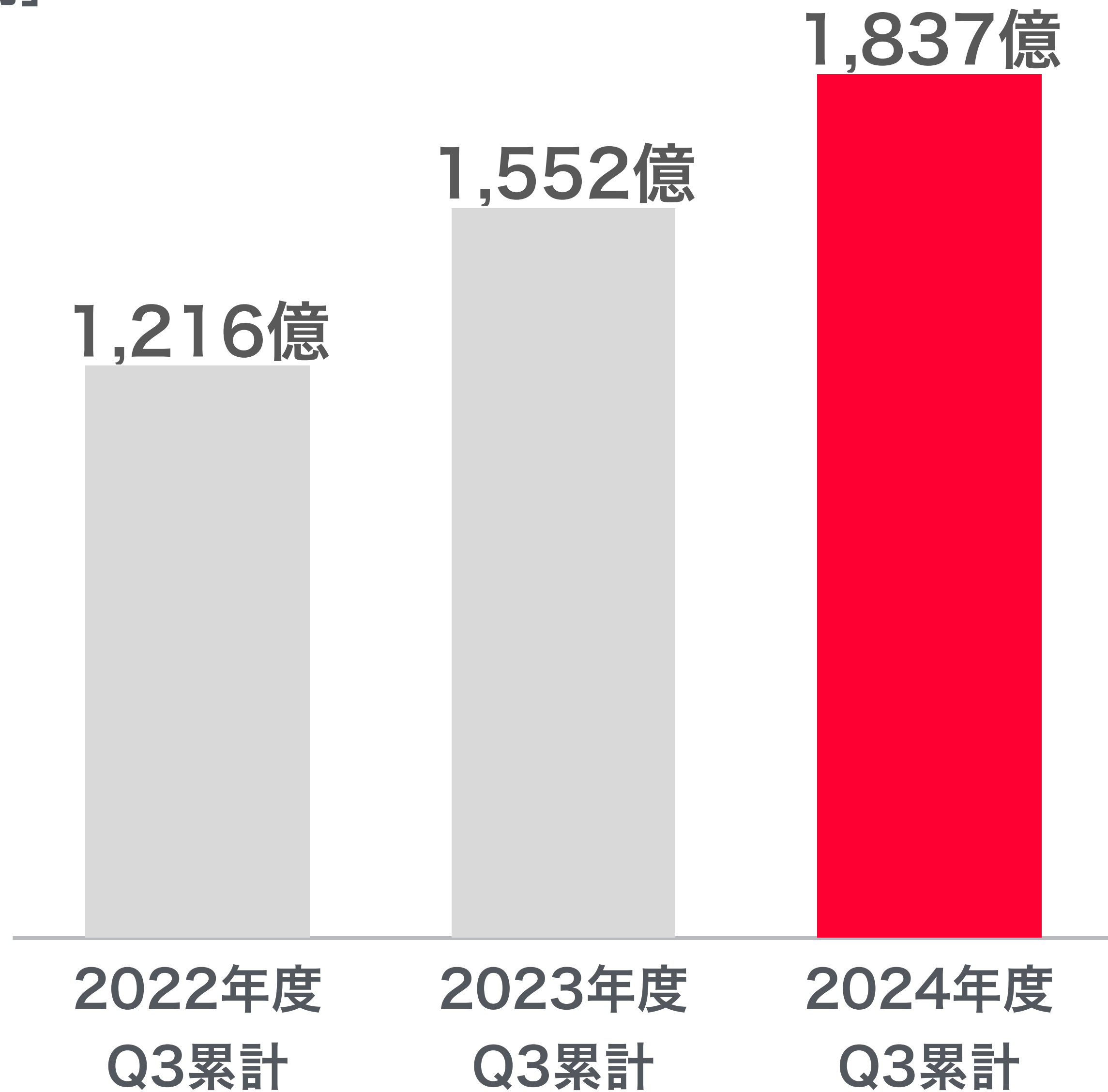


大幅に改善

PayPayの黒字化も寄与

PayPay 連結売上高

[円]

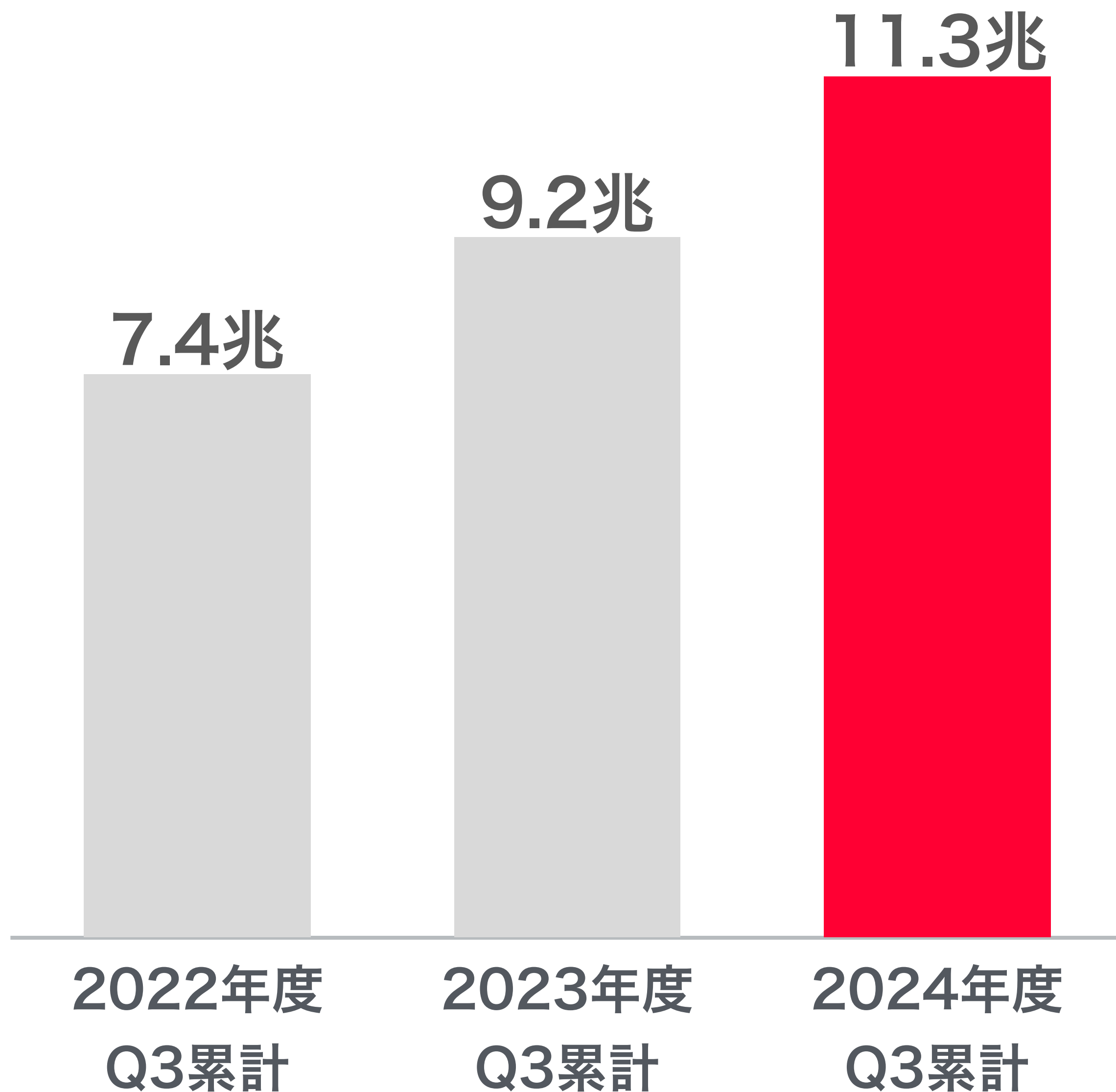


前年同期比
18%増収

(出所) PayPay株式会社
(注) 持分プーリング法の適用により、PayPayカード株式会社の財務諸表を2021年度期初から連結しています。
IFRS。非監査です。

PayPay 連結決済取扱高(GMV)

[円]



前年同期比
23%増

(出所) PayPay株式会社
(注) ユーザー間での「PayPay残高」の「送る・受け取る」機能の利用は含みません。
「Alipay」、「LINE Pay」等経由の決済および「PayPayクレジット(旧あと払い)」による決済を含みます。
PayPayカード(株)の決済取扱高をPayPay(株)の決済取扱高と合算し、PayPay(株)とPayPayカード(株)の内部取引を消去しています。

PayPay 連結EBITDA

[円]



353億

74億

-61億

2022年度
Q3累計

2023年度
Q3累計

2024年度
Q3累計

2年連続黒字

営業利益も

3四半期連続で黒字

(出所) PayPay株式会社

(注) 持分プーリング法の適用により、PayPayカード株式会社の財務諸表を2021年度期初から連結しています。
EBITDAは営業利益に減価償却費および固定資産除却損を足して算出、IFRS。非監査です。

金融ビジネスの 強化に向けた再編



金融ビジネスの再編① (2024年12月発表)

PayPayがPayPay銀行を子会社化へ

取引前



取引後



(注) 関係当局の許認可等が得られることを前提として、2025年4月1日に効力発生を目指しています。

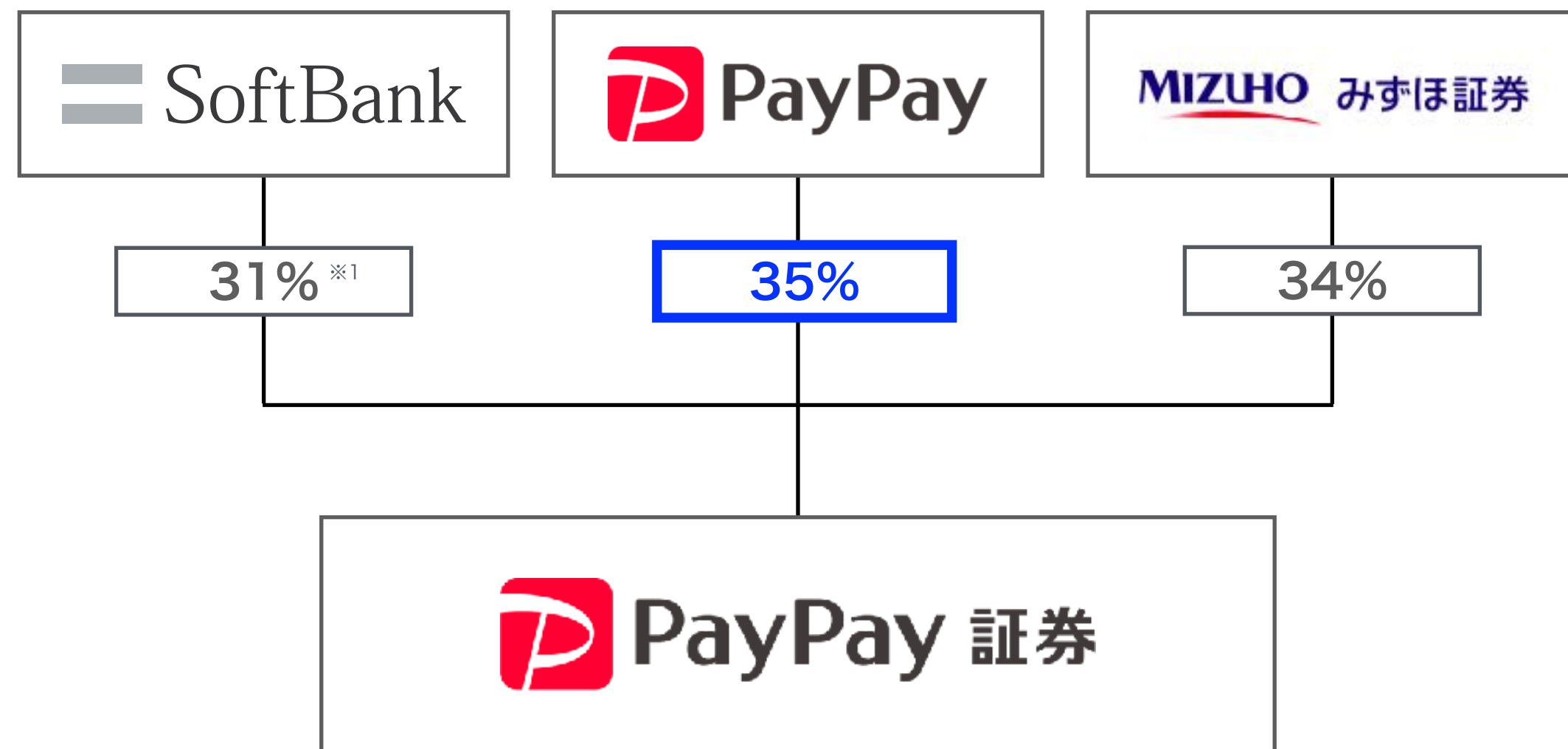
※1 優先株転換前 (優先株転換後 75%) ※2 優先株転換前 (優先株転換後 22%) ※3 優先株転換前 (優先株転換後 3%)
※4 優先株転換後 (優先株転換前 47%) ※5 優先株転換後 (優先株転換前 47%) ※6 優先株転換後 (優先株転換前 7%) ※7 LINEヤフー株式会社はPayPay銀行株式会社をZ Financial株式会社経由で保有

金融ビジネスの再編② (2025年2月発表)

PayPayがPayPay証券を子会社化へ

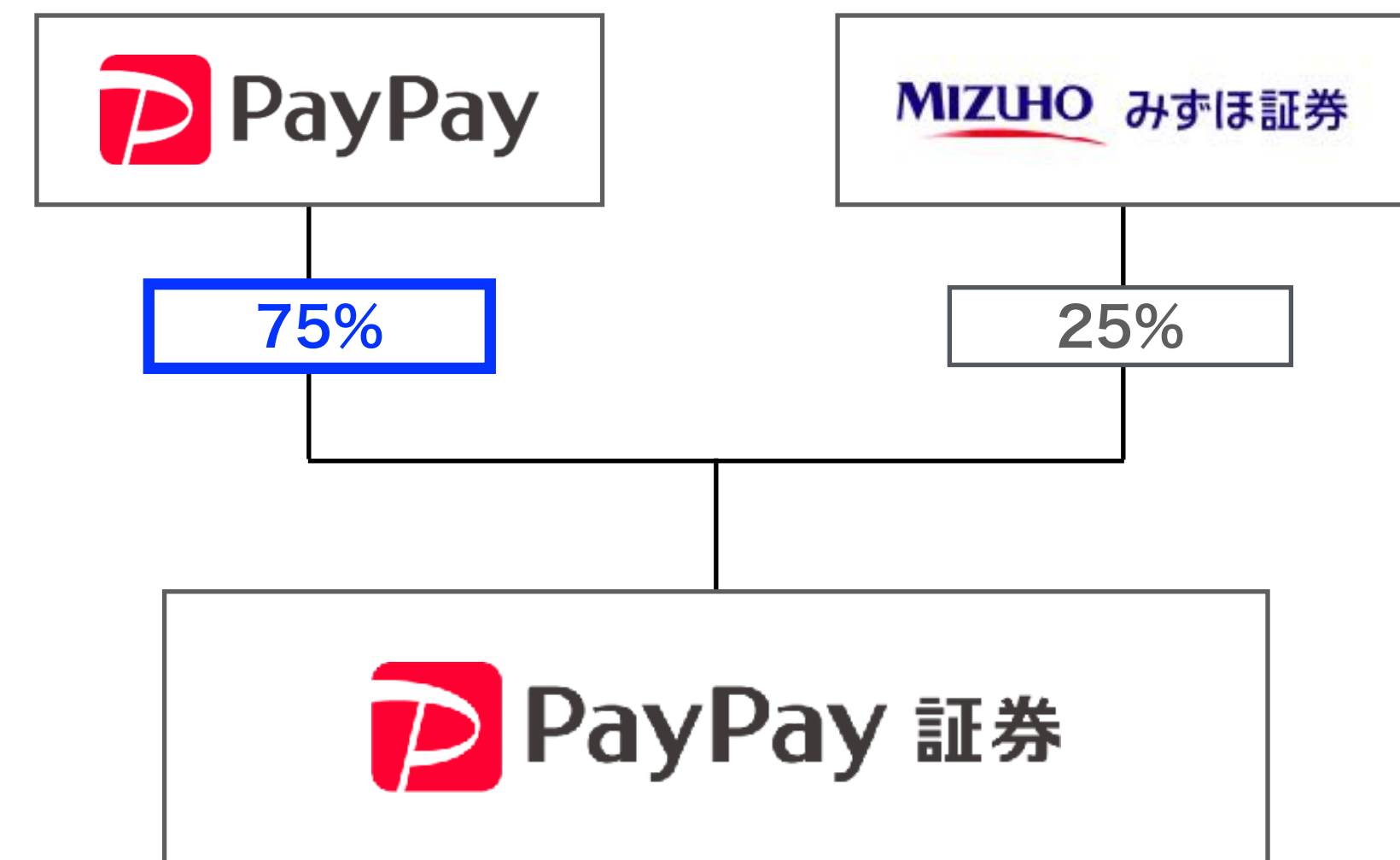
取引前

筆頭株主



取引後

PayPayがPayPay証券株をソフトバンクより取得し、
さらに増資を引き受けて子会社化へ^{※2}



※1 LINEヤフー株式会社が保有するPayPay証券株式会社の持分(0.4%)を含む

※2 LINEヤフー株式会社が保有するPayPay証券株式会社の持分も取得予定

(注) 2025年4月1日に効力発生を予定しています。

取引の目的

PayPay主導で銀行・証券サービスを強化

1

PayPayグループの
各種サービスとの連携を加速

2

PayPayのデータや技術力を活用した
商品・サービスの開発・強化

3

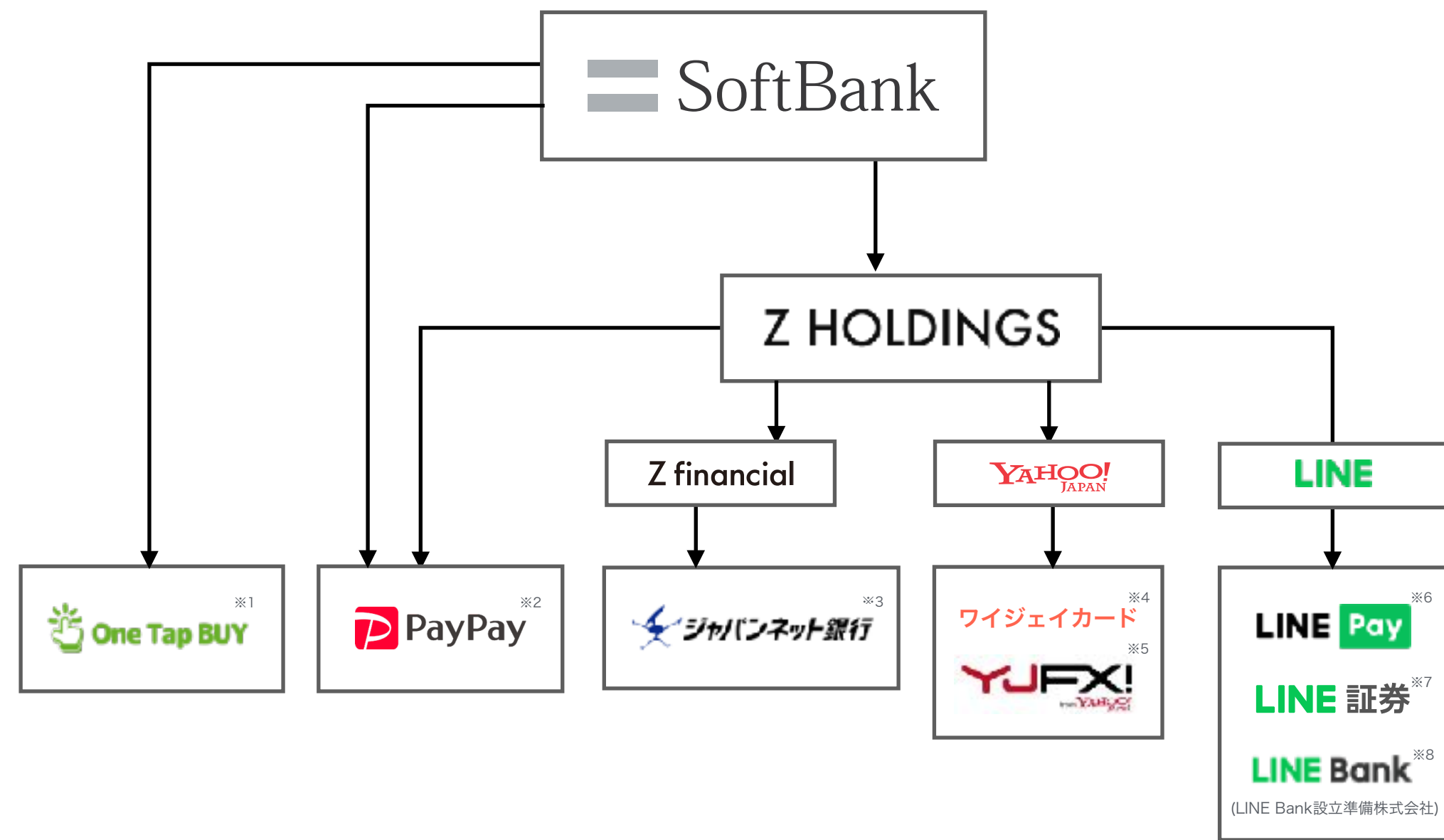
PayPayアプリとの融合による
新たな金融体験の提供加速



金融ビジネス 再編の取り組み

金融サービスをPayPayに集約

2021年3月末時点

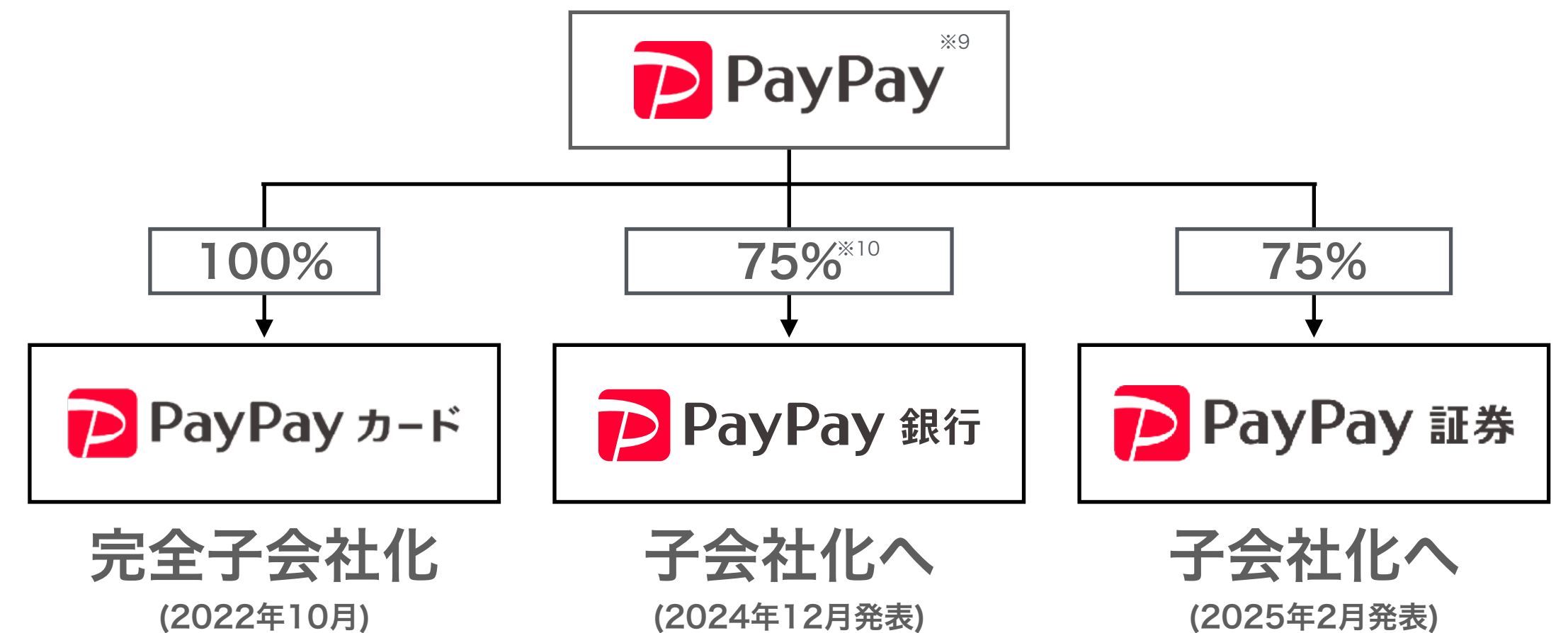


複雑な資本構成

複数のブランド/重複領域が存在

(注) 特に記載のない限り、社名は2021年3月末時点

再編後(予定)



資本関係をシンプルにし、成長を加速へ

(注) PayPayによるPayPay銀行の株式取得は、関係当局の許認可等が得られることを前提として、2025年4月1日に効力発生を目指しています。PayPayによるPayPay証券の子会社化は、2025年4月1日に効力発生を予定しています。

※1 2021年2月にPayPay証券株式会社へ商号変更。ソフトバンク株式会社が51.0%を保有 (2021年3月末時点)。

※2 ソフトバンク株式会社およびZホールディングス株式会社が25%ずつ保有する持分法適用関連会社 (2021年3月末時点)

※3 Zファイナシャル株式会社が46.6%保有 (2021年3月末時点)。2021年4月にPayPay銀行株式会社に商号変更 ※4 ヤフー株式会社が100%保有 (2021年3月末時点)。2021年10月にPayPayカード株式会社に商号変更。2022年10月、PayPayが同社を完全子会社化。

※5 ヤフー株式会社が100%保有 (2021年3月末時点)。2021年9月にGMOフィナンシャルホールディングス株式会社に全株式を譲渡 ※6 LINE株式会社が100%を保有 (2021年3月末時点)。2025年4月に「LINE Pay」サービスを終了予定

※7 LINE Financial株式会社が51%を保有 (2021年3月末時点)。2024年8月に証券事業を野村証券株式会社に移管 ※8 LINE Financial株式会社が50%保有 (2021年3月末時点)。2023年6月にLINE Bank設立準備株式会社を解散

※9 当社およびLINEヤフー株式会社は、Bホールディングス株式会社経由でPayPay株式会社を保有しているほか、同社株の一部を直接保有

※10 優先株転換後 (優先株転換前 47%)



次世代社会インフラの 構築に向けた進捗

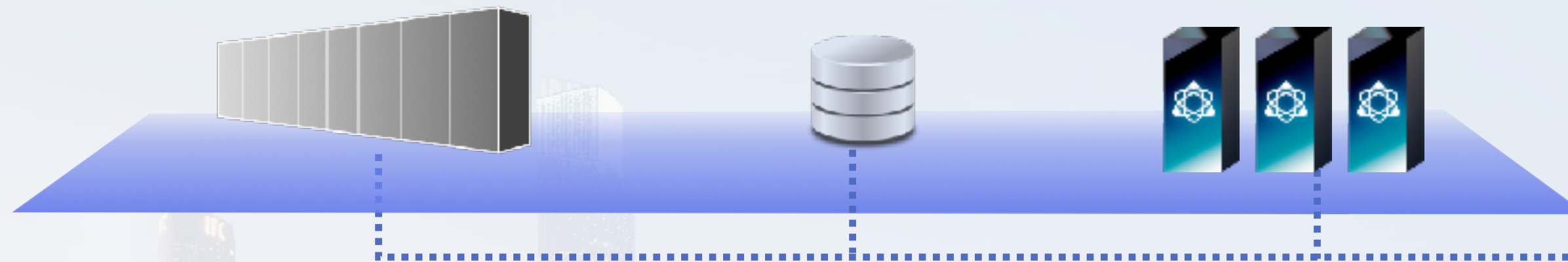
分散型AIデータセンターの構造

Brain
DataCenter

HPC
大規模AI基盤

DataLake

量子
コンピュータ



利用用途に応じて
データ処理場所を最適化

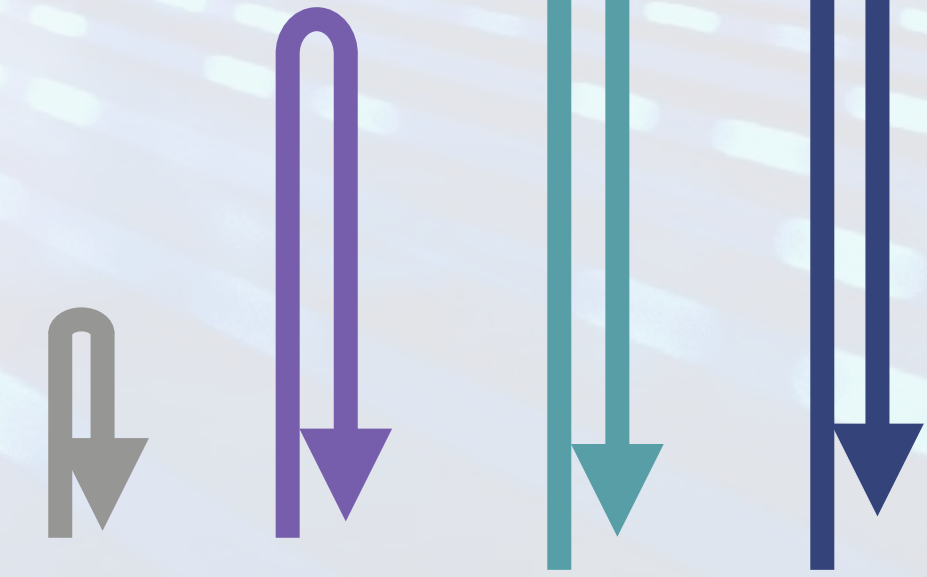
Regional
Brain



Sub
Regional
Brain



Edge
Computing
(MEC)



※進捗あり

(注) HPC : ハイパフォーマンスコンピューティング 35

AI-RANの統合ソリューションを発表 (2024年11月)

アイトラス

AITRAS

オーケストレーター

RAN
ソフトウェア

エッジAIアプリケーション

AIモデル

OSS
LLM

Partner
LLM

...

NVIDIA AI Enterprise

仮想化基盤

NVIDIA GH200 Grace Hopper Superchip
(Arm Neoverse V2採用)

Radio Unit

「AI-RAN」の コンセプトを具現化



AI-RANの統合ソリューションを発表 (2024年11月)

アイトラス

AITRAS

オーケストレーター

エッジAIアプリケーション

AIモデル

OSS
LLM

Partner
LLM

...

NVIDIA AI Enterprise

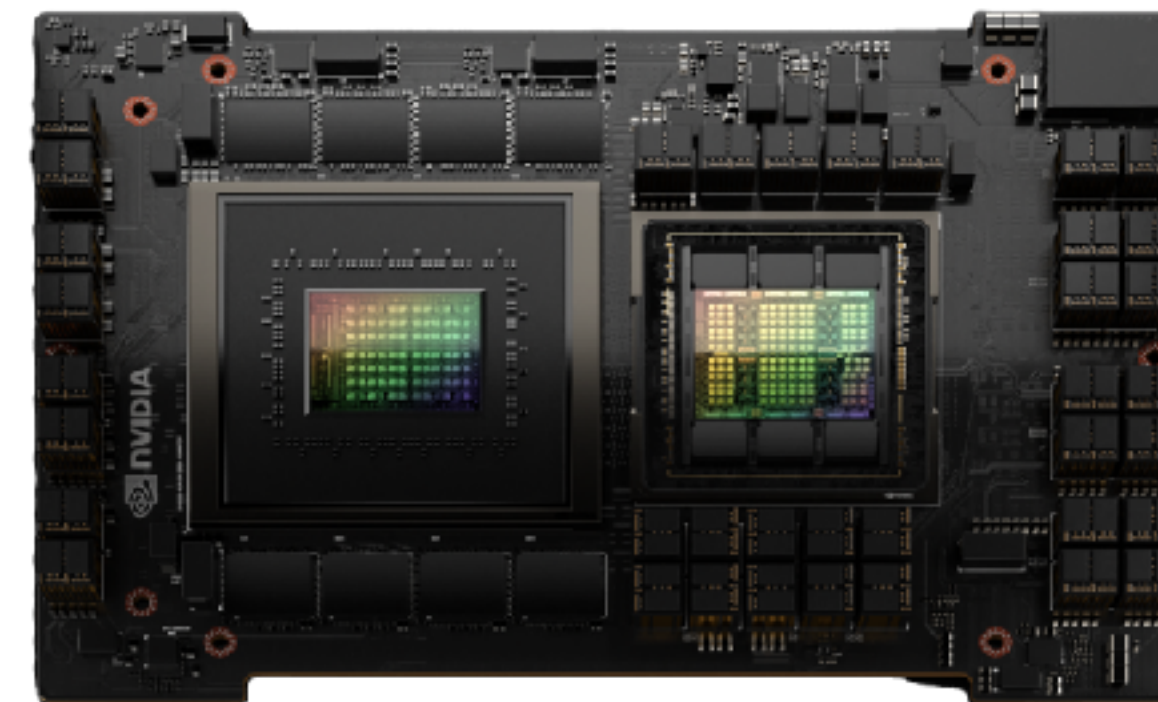
RAN
ソフトウェア

仮想化基盤

NVIDIA GH200 Grace Hopper Superchip
(Arm Neoverse V2採用)

Radio Unit

RANとエッジAIアプリケーションの提供を
同一の基盤で実現



(注) RAN : Radio Access Network (無線アクセスネットワーク)の略称。
スマートフォンなどの端末と基幹網(バックボーン)を結ぶ無線通信によるネットワーク。
エッジAIアプリケーション : デバイスに近いAIでデータを処理し、提供するサービス。
(具体例 : 自動運転、自律型ロボット etc.)

「AI-RAN」を提供する意義



① モバイルサービスの競争力を強化

(AIが自律的に通信パフォーマンスを向上)



② 分散型AIデータセンターを実現

(MECの効率的な配置)



③ 新たな収益源の創出

(計算リソースの空きを外販・AITRASの海外キャリアへの外販)

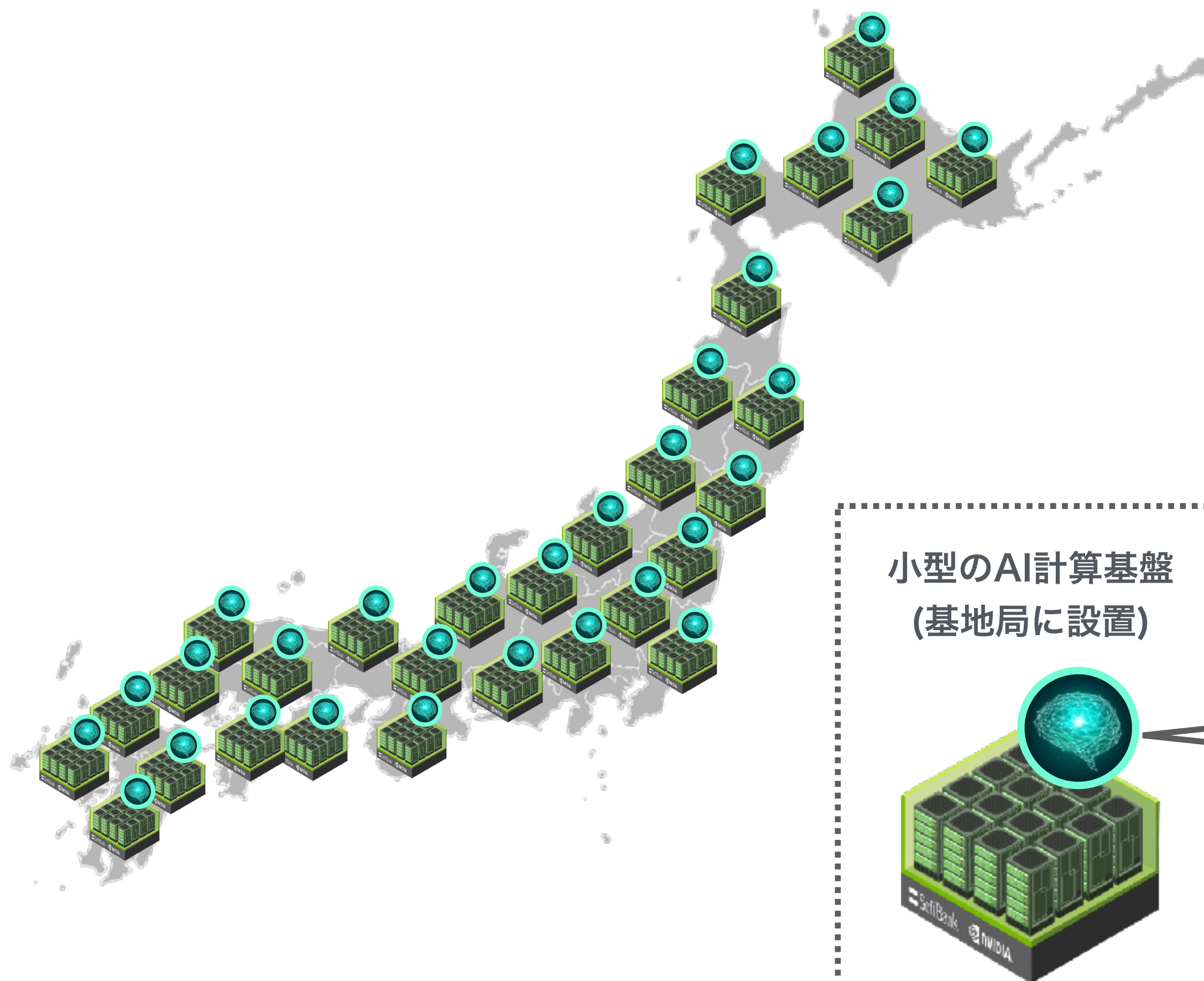


④ 消費電力の大幅な低減

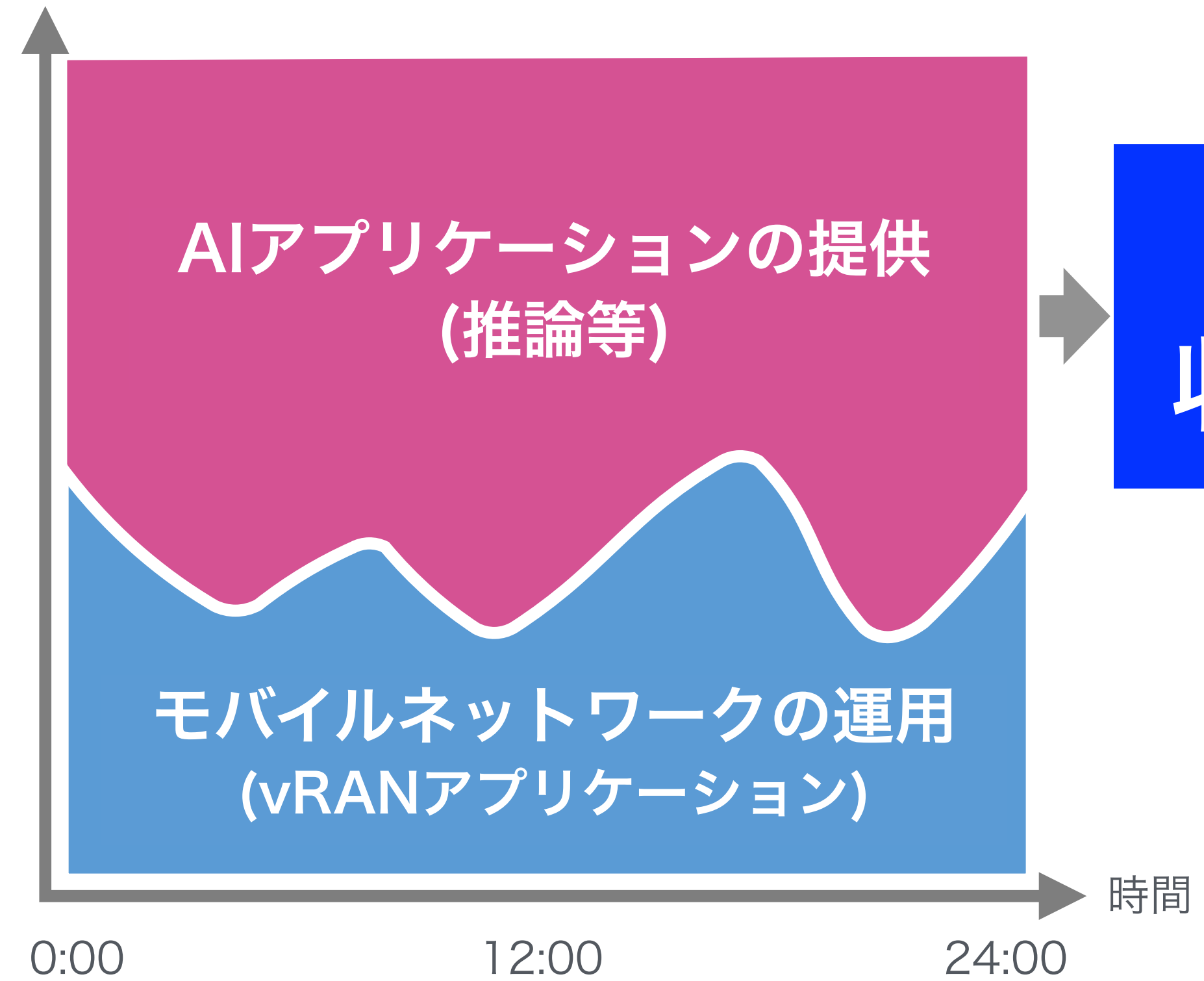
(基地局同士が連携し最適化、電力の地産地消が可能)

「AI-RAN」を提供する意義

モバイルネットワークを
分散型の小型AIデータセンター網へ進化



AI計算基盤のリソース利用率



新たな
収益源へ

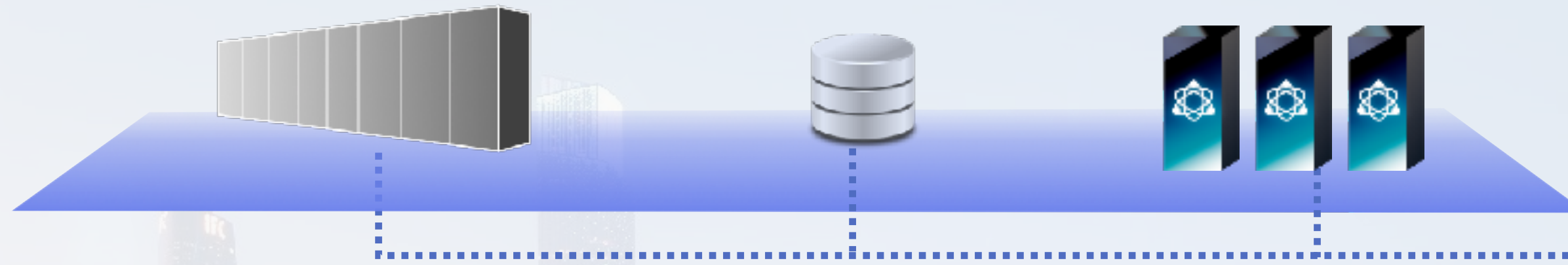
分散型AIデータセンターの構造

Brain
DataCenter

HPC
大規模AI基盤

DataLake

量子
コンピュータ



利用用途に応じて
データ処理場所を最適化

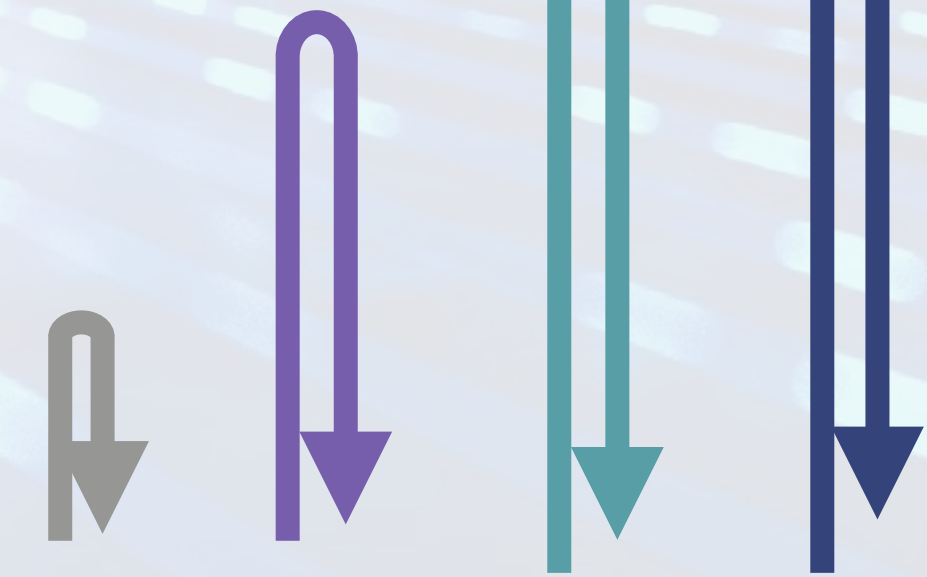
Regional
Brain



Sub
Regional
Brain



Edge
Computing
(MEC)



※進捗あり

(注) HPC : ハイパフォーマンスコンピューティング 40

Brain DataCenterの進捗(2024年12月20日発表)

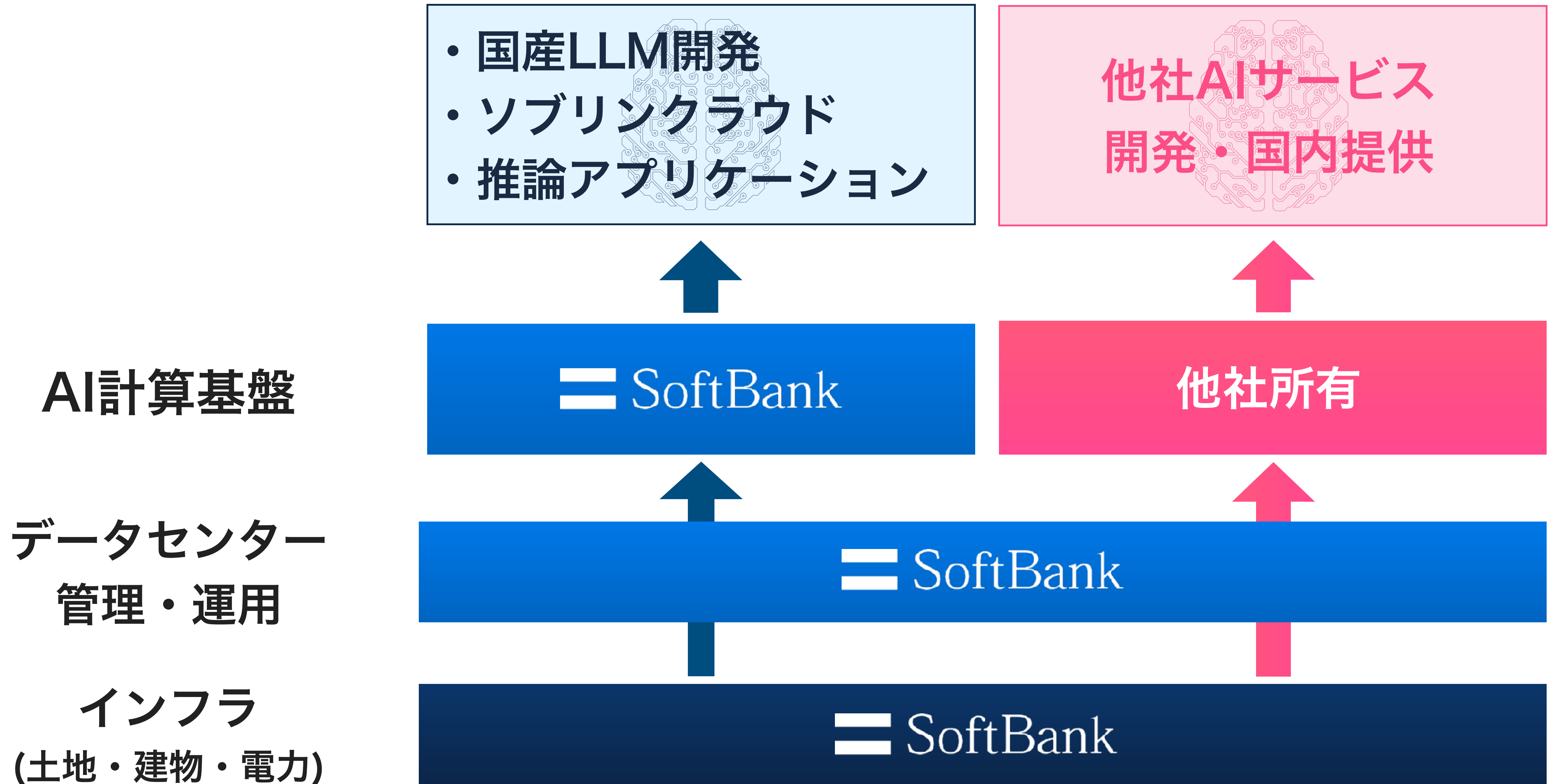
AIデータセンター構築に向け

シャープ堺工場の土地や建物の取得(約1,000億円)を決議[※]



2026年中に約150MW規模、
最大250MW超の規模まで拡大へ

堺AIデータセンターの用途



AIデータセンターを中心とした「産業集積地」構想

あらゆる産業をAIで活性化し、地域産業・経済の成長を促進

製造業 (無人工場)



農業(自律管理・収穫)

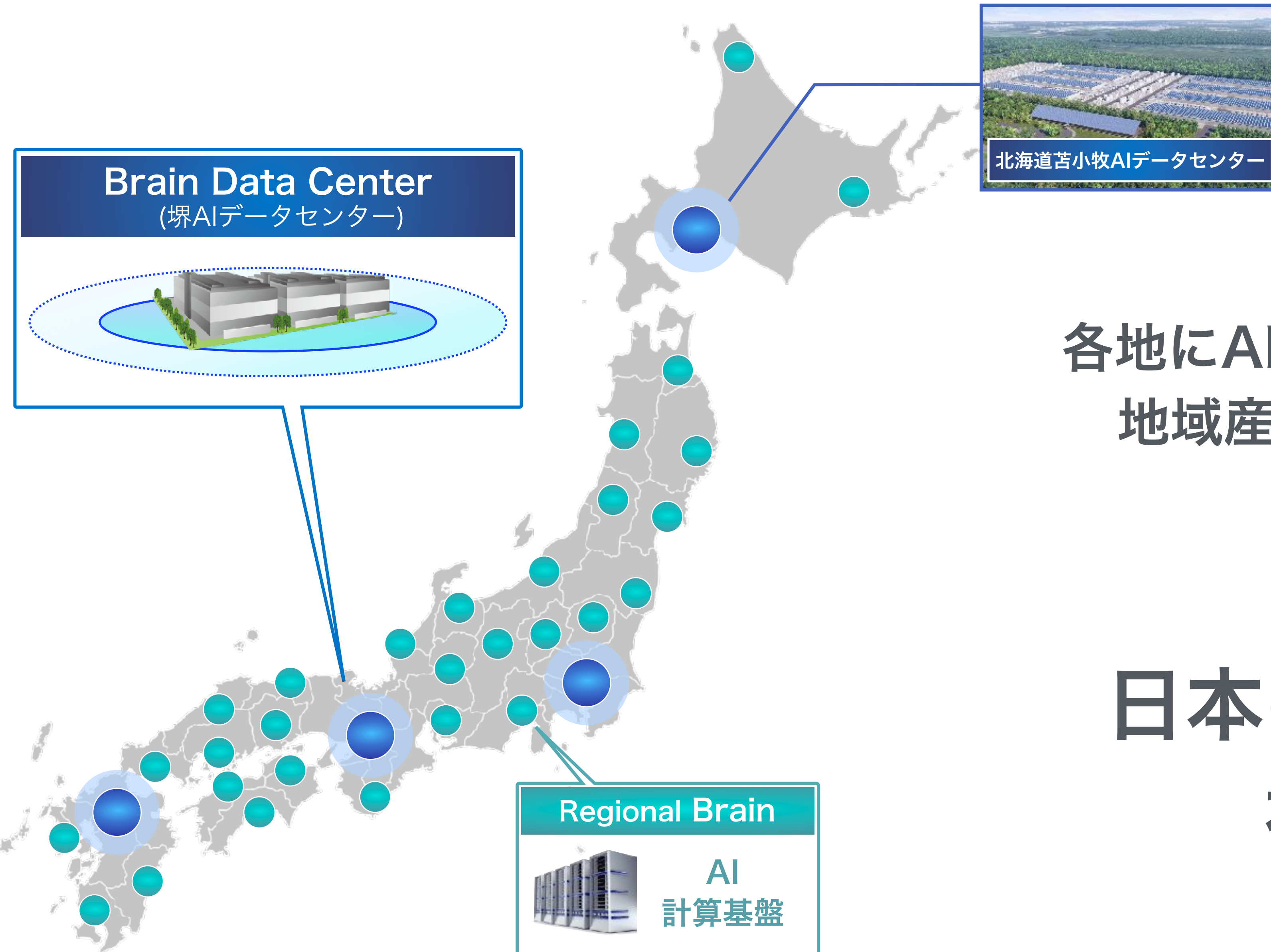


製薬 (AI創薬)

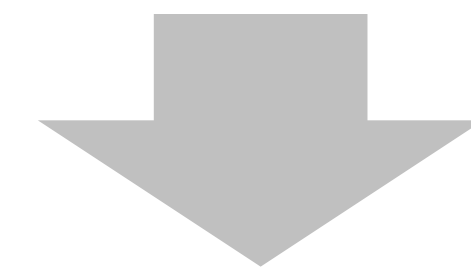


- 企業保有データをエリア内で処理
- 技術・知的財産の流出リスク抑制

AIデータセンターを中心とした「産業集積地」構想



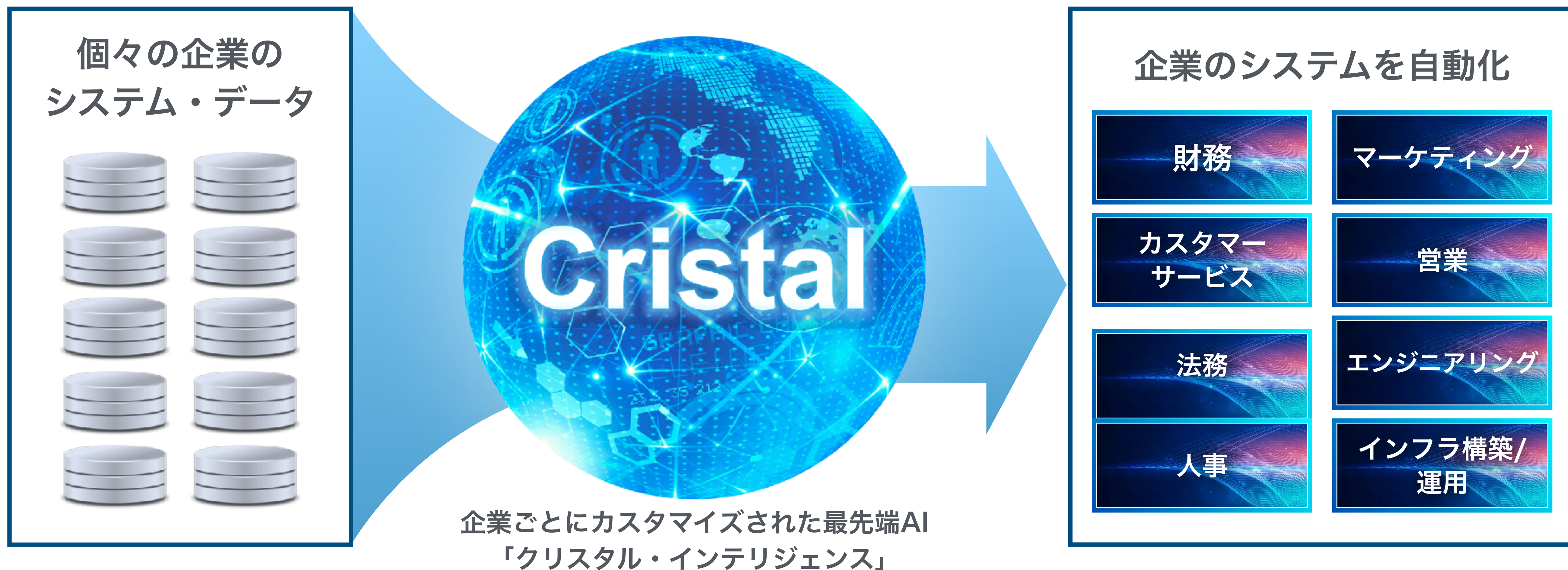
各地にAIデータセンターを構築し
地域産業・経済の成長を牽引



日本の産業を支える
社会基盤へ

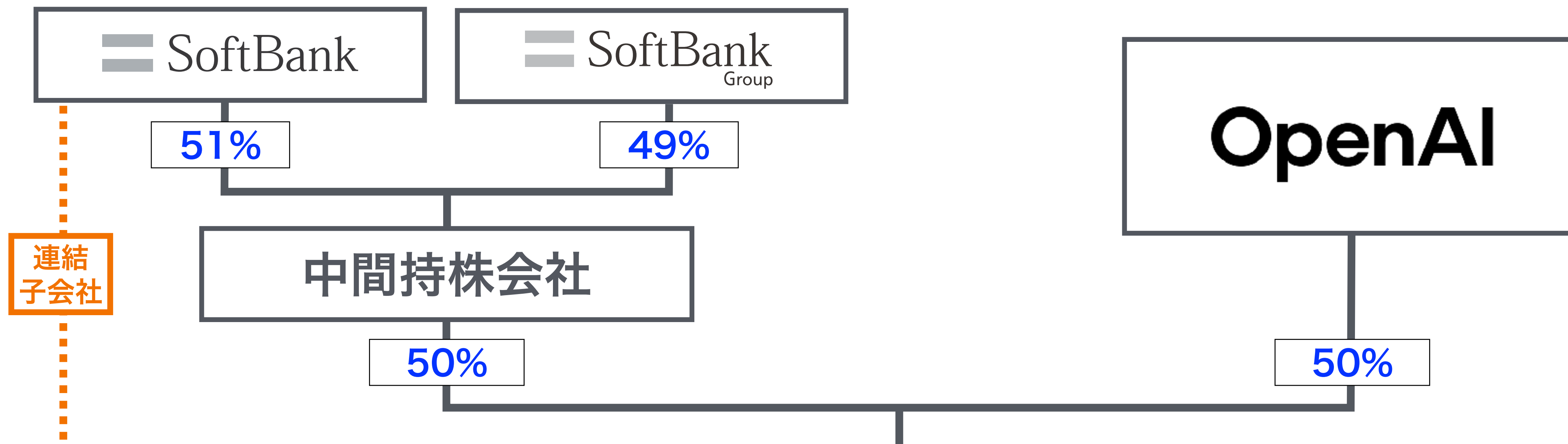
OpenAIとのパートナーシップを発表 (2025年2月3日)

個々の企業のシステム・データを統合し 企業ごとにカスタマイズされた最先端AIを開発・販売



(注) クリスタル・インテリジェンスは仮称であり、正式名称ではありません。また本資料に記載された情報は現時点の計画に基づくものであり、仕様やその他条件等は正式リリースまでに変更される可能性があります。

OpenAIとの合併会社設立で合意



連結
子会社

「SB OpenAI Japan」
日本の主要企業向けに
「クリスタル・インテリジェンス」を独占販売へ

日本のあらゆる産業における企業変革を目指す

AIの能力レベル

変革型	5	異なるチームや部門間の調整を行い、業務を遂行（組織全体を最適化）	+ 協調 + 感情/性格
	4	チームや部門の範囲内で自律的に考え、変化に対して柔軟に対応	+ 自律学習 + 汎用化
助手型	3	会話しながら文脈を理解して補助する	+ 記憶/振り返り
	2	経験を積んで適切に回答する	+ 推論/意思決定
	1	ルール通りに動く	感知/行動

技術進化の比較

助手型

変革型

自動運転



運転支援システム
(ADAS)



条件付き自動運転



完全自動運転
(交通インフラの全体最適)

AI



コンテンツ生成
(資料・議事録・メール等の生成)



業務自動化
(カスタマーサポート・システム開発)



AIエージェント
(企業運営の全体最適)

ソフトバンク(株)の目指す姿

SoftBank

AIを最も上手に使いこなし、次世代の社会インフラとなる

クリスタル・
インテリジェンス



日本語に特化した
大規模言語モデルの構築



日本マイクロソフトとの
生成AI領域での戦略的提携



Gemini for
Google Workspace の提供



国内最大級の
AI計算基盤の整備



AIデータセンターの構築
(北海道 苫小牧・大阪 堺)



AI-RANの開発
("AITRAS"の展開)



超分散
コンピューティング基盤



ESG



当社の位置付け

2024年12月
3年連続で選定



	2022年度	2023年度	2024年度
国内の通信業界	当社のみ		
日本の選定企業数	37社	38社	37社
世界の選定企業数	333社	321社	321社
DJSIの 評価対象企業数	世界の時価総額上位 3,500社		
世界の 上場企業数	5.5万社		

「日経SDGs経営大賞」 大賞を受賞 (2024年11月)



史上初 2年連続受賞
プライムシート企業に選出

NIKKEI
SDGs

大賞 2024

(国内887社中トップ)

ESG評価 外部評価サマリー

最高峰の評価を複数獲得

第6回
日経SDGs経営大賞

脱炭素経営
ランキング GX500

DJSI World

MSCI ESG格付

大賞

(2年連続)

プライムシート企業選定

NIKKEI
SDGs

大賞 2024

第1位

(2年連続)



3年連続
選定

Member of
Dow Jones
Sustainability Indices

Powered by the S&P Global CSA

AAA

MSCI
ESG RATINGS



CCC | B | BB | BBB | A | AA | AAA

まとめ

- 1** 全セグメント増収増益
上方修正後の通期予想に対して85%超の進捗(営業利益・純利益ともに)
- 2** 金融サービスをPayPayに集約し成長を加速
- 3** 次世代社会インフラの構築に係る取り組みが進展
- 4** ESGで高い外部評価を獲得



情報革命で人々を幸せに





SoftBank